

研修みずれわ

能登の復興を願う！ Vol. 58 2025



歴史探訪 第四弾
埼玉県指定旧跡 忍城址
映画化もされた歴史小説『のぼうの城』
(のぼうのしる)で有名になった城と田んぼアート



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真：埼玉県指定旧跡 忍城址

巻頭言 新年を迎えて～新たな要請への対応～	渡辺 志津男	日本下水道事業団	1
下水道界の人材育成を支えるJS研修の新たな取り組み	豆谷 竜太郎	日本下水道事業団研修センター	2
新任の挨拶と令和7年度JS研修計画調査等の集計概要について	辻田 威夫	日本下水道事業団研修センター	4
研修センターへの期待と人材育成の重要性	行田 邦子	埼玉県行田市	6
佐野・足利小口マンの旅 「研修みずのわ」と足利市	新井 正章	栃木県足利市都市建設部	8
人材育成（技術職）の重要性	長久保 耕治	青森県東北町	10
〔訪米記〕 姉妹都市訪問で思うこと 長年培った信頼関係は人を動かす	寺澤 薫	宮城県七ヶ浜町	12
〔訪米記〕 東北震災復興の絆！ 袖振り合うも他生の縁	大宮司 綾	宮城県松島町会計課	15
〔研修体験記〕 研修を通じて発見した日本下水道事業団 研修センターの魅力			
「下水道事業団研修を振り返ると」	高橋 栄一	埼玉県行田市都市整備部	18
事業団研修への期待と思い出そして絆			
「下水道事業団研修が繋ぐひとのわ」	松本 裕之	（公財）福岡県下水道管理センター	20
「研修受講と講師の体験記」	鈴木 豪	神奈川県藤沢市下水道部下水道管路課	21
「事業団研修の思い出」	堀 稔男	山口県萩市農林水産部農林水産整備課	23
「事業団研修を振り返って」	蛭名 真一	青森県東北町上下水道課下水道係	24
事業団研修の思い出と受講して得たもの 研修で学ぶ大切なこと	上村 明弘	群馬県玉村町上下水道課	26
5回の研修受講で得た事 事業団研修を振り返って	川高 未侑	（公財）広島県下水道公社三原支所	28
研修生だより			
「受講生と講師を体験して得た事」	安田 昭	福島県須賀川市上下水道部	30
「30数年ぶりの講師体験～さて、私に務まるのだろうか？～」	身崎 尚	（元）宮城県仙台市太白区	31
「OB講師としての貢献」	成瀬 重雄	元栃木県佐野市都市建設部	33
JS研修業務運営座談会			
地方公共団体OB講師が語る、未来を支える人材の育成とそのやりがい			36
山田 助義（（元）東京都・日本下水道事業団研修部）／片柳 栄（（元）栃木県佐野市市民生活部）			
土屋 誠（（元）埼玉県新座市上下水道部）／石山 哲（（元）山形県米沢市上下水道部）			
船倉 宏（（元）広島県広島市・廿日市市建設部）／豆谷 竜太郎（日本下水道事業団研修センター）			
辻田 威夫（日本下水道事業団研修センター）／渡邊 良彦（日本下水道事業団研修センター）			
岸本 涼一（日本下水道事業団研修センター）			
歴史探訪 古代から近代まで多彩な歴史と文化財が伝わるまち	行田 鈴木 紀三雄	埼玉県行田市郷土博物館	45
〔雑感〕 大谷翔平選手を思う（続編）	長沼 輝伸	岩手県県南広域振興局土木部	49
能登半島地震調査隊長 2度の体験報告と現状 能登地震支援を経験して			
	西村 隆博	熊本市上下水道局計画整備部	54
研修講師と能登沖地震調査隊長体験記 能登半島地震の復旧支援と講師研修			
	大塚 重道	福岡市道路下水道局建設部	56
同窓会ニュース			
宮山福会	伊藤 太治	福島県須賀川市上下水道部	58
	片柳 栄	元佐野市市民生活部	60
福岡みずのわ会	太田 千春	福岡市道路下水道局建設部	61
みずのわ熊本会	坂田 直樹	熊本県熊本市上下水道局計画整備部	63
岩手みずのわ会	小野寺 尚子	岩手県花巻市建設部	64
令和7年度 戸田研修（対面集合）実施計画			68
下水道技術検定 下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について			70
研修センターの歩み			74
編集後記			巻末

巻頭言

新年を迎えて

新たな要請への対応

日本下水道事業団
理事 渡辺 志津男



日本下水道事業団（J S）では1972年の研修事業開始以来、8万8千人を超える研修生の皆さまに受講いただいてまいりました。改めて、研修生の皆さまをはじめ、派遣団体ならびに講師をご担当頂いた皆さま、研修事業の関係者など多くの皆さまのご支援、ご尽力に感謝申し上げます。

さて昨年は、新年早々（1月1日）に、能登半島地震が発生し、多くの被害が出たことを受け、発災直後から全国の下水道関係者には、被害状況の調査、応急復旧などのために現地に集結し、連携を図りながら震災対応にご尽力いただきました。J Sも要請があった8市町の下水道ポンプ場、処理場に対する支援として現地に多くの職員を派遣しました。

今回の震災対応では、今年度から水道事業が国交省の所管となることを見据えて、水道と下水道の上下水道一体化による復旧対応が図られました。このことは、これまでの震災対応では充分ではなかった部分かもしれませんが、新たな取組みの先例として今後の災害対応においても今回の経験が活かされるものと考えています。

能登半島地震への対応では、本格復旧は継続中あるいは、これからという現場も多いかと思いますが、これに追い打ちをかけるように9月には能登半島で豪雨による大きな被害も発生しています。それらの対応に当たられている関係者の皆さまに改めて敬意を表するとともに、能登半島の復旧、復興のために継続した取組みを切に願います。

国交省による上下水道一体化での取組みだけでなく、W I P P Pへの取組み、下水汚泥の肥料利用、脱炭素社会のさらなる推進、施設の耐震化推進計画の策定など新たな課題はもとより、施設の再構築、浸水対策など継続した大きな課題への対応、そして管きょや処理場の設計と維持管理など基礎的だが事業の根幹をなす課題への対応など下水道事業に求められる内容は非常に多様化、高度化しております。その対応にあたり、技術者不足が懸念されている地方公共団体、民間事業者の皆様に対してJ Sの研修事業がサポートできるところは非常に大きいと考えております。

① 新たな課題に対応したカリキュラムの新設

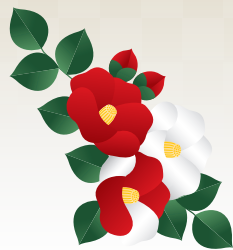
国交省から全国の下水道事業に求められる新たな取組みへのタイムリーな情報を得るとともに、意見交換などもさせて頂き、常に新たなカリキュラムを新設する努力を継続してまいります。

② 効率的な学習と交流を深められる新たな場の提供など研修環境の充実

埼玉県戸田市にあるJ S研修センターでの集合研修においては、2022年度から新しく稼働した新寮室棟も積極的に活用する研修計画を立案して参ります。この新寮室棟は、既にご利用した研修生の皆さまから、学習室や談話室、女性研修生のためのパウダールームなどについて利用しやすいなど高い評価を受けております。

③ 多様な研修手法の実施

J S研修の特徴を生かした効果的な演習や実習をするとともに、寝食を伴いする中で、全国の仲間との人



的ネットワークの構築も可能となる集合宿泊研修をはじめ、コロナ禍で培ったオンライン研修、さらに受講生の利便性をより高めたオンライン研修などそれぞれの利点やニーズを踏まえ、多様な研修を企画、実施してまいります。

今後もDXやAIの進展により、研修事業の形式やあり方も大きく変化してくるものと思いますが、そうした状況の変化、要請も的確にとらえ、研修生の皆さまにとって、より有益な研修事業をお届けできるよう対応してまいります。

引き続き地方公共団体や民間企業の技術者の育成と技術継承などに向けて、全力で取り組んでまいりますので、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

下水道界の人材育成を支えるJS研修の新たな取り組み

日本下水道事業団研修センター

所 長 豆 谷 竜 太 郎



ホームページ「JS下水道研修」のリニューアル

令和6年度の研修申込みから利用者の皆様へのわかりやすさを重視して大幅にホームページをリニューアルしました。既に多くの方々に見て、使っていただいていると思いますが、リニューアルの概要は以下のとおりです。

- ・ トップページで「公務員研修」「民間研修」を区分し、各研修一覧から研修の形態、募集状況、その他キーワードによる検索が可能になりました。
- ・ 参加希望の研修を選択



JS下水道研修ホームページ

したページから、直接受講申込み手続きを開始することが可能になりました。

では、ページのわかりやすさ、Web申込の利便性について97%の方から好評をいただいています。

利用者のアンケート結果

研修講師登録制度の創設

持続的な下水道事業の発展及び人材育成に、JSが引き続き貢献していくためには、地方公共団体OBなど、豊富な知識や経験を持つ研修講師の持続的確保が必要不可欠であるため、「研修講師登録制度」を創設しました。

・地方公共団体等を退職し、下水道事業における実務経験（概ね10年以上）を有する方で、「下水道技術者の育成に貢献したい！」という熱意のある方の応募をお待ちしています。

・講師として登録いただく部門は、計画設計部門、経営部門、実施設計（管きよ）部門、実施設計（処理場）部門、工事監督管理部門、維持管理（処理場）部門、維持管理（管路）部門、水質管理部門、官民連携部門の9部門

としています（登録は複数部門について可能です）。

本号では地方公共団体を退職された後もJS研修で講師としてご活躍いただいている皆さんの座談会の模様を掲載しています。講師としてのやりがいなどについて語られていますので、

お読みいただきJS研修講師の登録に関心を持っていただけたらと思います。

下水道研修支援業務のご案内

地方公共団体や民間企業等が主催する職員・社員研修について、戸田の研修施



地方公共団体OB講師との座談会

設（宿泊施設、食堂、教室及び実習室等）を活用した研修の企画から実施までを支援しています。支援可能な研修業務の条件は、下水道に関する研修であることと、JS下水道研修に影響しない開催時期であること

（主に2月中旬～5月上旬の間）、JS講師による講義を含むことです。
JS研修センター活用のメリットとして①実務経験豊富な講師陣を提供できます、②実習室の活用によって実践力を養う講義も可能

より効果的な職員・社員研修のために

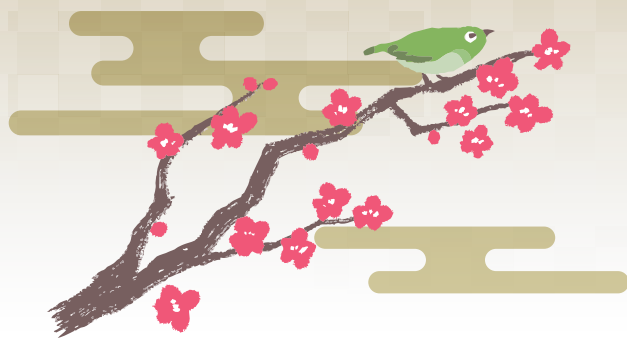
JSの研修施設を 活用してみませんか

「第一線で活躍できる人材の育成」を共に目指します

※なお、研修支援時期は主に2月～5月になります（要調整）

実務経験豊富な講師陣を提供できます
実習・演習からより高い実践力を養えます
カリキュラム作成からお手伝いできます

下水道研修支援業務のパフレット



です、③カリキュラム作成からお手伝いできます、④快適な宿泊研修で受講生同士の絆が深まります、⑤暖かくておいしい食事を3食提供可能です。

既に下水道協会地方支部や民間企業の方々に、本業務を活用いただき高評価をいただいています。

オンデマンド（動画配信）研修の通年受講化

受講する皆さんの利便性

向上をめざして、現在、オンデマンド研修の一部専攻の申込、受講について、①申込については期間を固定せずに、受講したいときにいつでも可能、②申込後5営業日以内に動画のURL、パスワードを送信し、その日から8日間視聴可能とする試行を実施中です。

試行結果を踏まえ、今後、オンデマンド研修の多くの専攻へ拡大していければと考えています。

なお、これまで同様、研修生の皆さんに健康な状態で研修を受講し、職場に戻っていただくために、コロナ、インフルエンザなどの感染症対策にも引き続き配慮するなど充実した研修環境の提供を心がけ、「ウォーターPPP」など新たな施策に関する専攻なども適宜ラインナップしていきますので、これからも多くの方々の研修受講をお待ちしております。

新任の挨拶と令和7年度JS研修計画調査等の集計概要について

日本下水道事業団研修センター

次長（兼）研修企画課長

辻田 威夫



新任挨拶

平素は、日本下水道事業団研修センターへのご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。令和6年4月より、研修センター研修企画課に配属されました辻田と申します。昨年度まで研修センターの教授としてコース運営や設備系の講師を2年間勤めておりますの

で、研修センター勤務は今年度で3年目となります。これから研修講師の実務経験を活かしながら、研修計画の企画、各講師陣との調整等に取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

本稿では、令和7年度研修計画策定に向けてのアンケート結果や令和7年度JS研修計画、また改修工事の予定についてお知らせいたします。



令和7年度JS研修計画策定のための調査（集計概要）

毎年、地方公共団体・下水道公社等の皆様には、JS研修に関する調査を実施させていただき、研修人員の把握に努めるとともに、皆様のご意見を研修計画等に反映させていただいております。今年度につきましても、「令和7年度JS研修センター研修参加意向確認等事前調査について（依頼）」（令和6年8月20日付）に関して、多くの皆様より、来年度の研修予算の確保情報、研修参加予定人数、また各コース・専攻に対するご意見等の回答をいただくことができました。一部ではございますがその調査結果を紹介いたします。

『令和7年度JS研修予算の確保状況についての調査』(回答数365件)

・令和6年度予算と同額程度を確保予定342件(93.7%)

・令和6年度予算より減額予定▼11件(3.0%)

・令和6年度予算より増額予定▼12件(3.3%)

『JS研修の人材育成上の貢献度(満足度)についての調査』(回答数258件)

・役に立った▼239件(92.6%)

・少し役に立った▼17件(6.6%)

・あまり役に立たない▼2件(0.8%)

・役に立たない▼0件(0.0%)

『令和7年度研修参加予定数についての調査』

「参加予定あり」の回答数と参加予定人数

・戸田対面研修へ参加予定

▼196件(756名)

・地方研修へ参加予定▼79件(182名)

・オンライン研修へ参加予定▼60件(88名)

・オンデマンド研修へ参加予定▼66件(172名)

令和7年度のJS研修

予算の確保状況においては、多くの団体様が前年度並みの研修予算確保にご尽力いただいていること、またJS研修の人材育成上の貢献度(満足度)においても多くの団体様より高い評価をいただくことができました。その他にも受講料に関すること、地方研修や個別課題研修に関することなど、皆様より貴重なご意見やご要望をお寄せいただきましたことにより感謝申し上げます。今後の研修企画に活かしていきたいと思っています。

管理本館棟、総合実習棟の改修工事予定について

研修センター内の施設・設備の老朽化対策、宿泊施

設の快適性向上等を目的として、令和7年度から令和8年度にかけて管理本館棟では寮室のリニューアルを、総合実習棟では外壁タイルの改修を主体とする改修を行う予定です。令和7年度以降は、研修を開催しながらその改修工事を進めることとなるため、研修生の安全に十分注意し、工事に伴う研修への影響も最小限となるよう配慮いたします。研修生におかれましては、何卒、ご理解ご協力をお願いいたします。

令和7年度研修計画について

毎年、研修計画の策定では、研修効果の最大化が図れるように、受講された研修生や講師陣からの意見等を反映しながら、講義内容、カリキュラム等の整理、研修形態等の検討に取り組んでいます。今年度新たに開催した「ウォーターPPP

の進め方」専攻では、期間が短い、もっと意見交換がしたかったとの声が多く、この度、講師陣の協力も得られる見通しが立ったこともあり、令和7年度では研修期間を2日間から3日間へと拡大し、専攻名も「ウォーターPPP入門」

へ改名する予定です。その他、新規やりリニューアルを予定している専攻もございます。令和7年度の確定した研修計画につきましては、当事業団ホームページへ掲載いたします。ただし、これからの諸事情により変更・追加・廃止となる場合

もありますので、研修の最新情報につきましては当事業団ホームページにて、適時ご確認いただけますようお願いいたします。

これからも、多くの方々にJS研修へご参加していただけるようニーズを踏まえた研修内容の充実、また快適な研修生活となるよう施設の改善等にも努めて参りますので、今後とも研修センターへの一層のご理解とご支援をよろしくお願い致します。

研修スタッフ一同、皆様とお会いできることを楽しみにお待ちしております。





埼玉県行田市

市長

こう だ
行田 邦子研修センターへの期待と
人材育成の重要性

この度は、機関誌「研修みずのわ」への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。また、研修センターが提供する専門的な知識と技術等により下水道事業が推進し、生活環境の改善と公共用水域の水質の保全に寄与されていることに対して、心より敬意と感謝を表します。

行田市は埼玉県北部に位置し、都心から約60km、電車では約60分圏内の距離にある面積67.49km²、人口約7万8千人の歴史と自然が調和した魅力的なまちです。市内には、国の特別史跡に指定され、埼玉県名発祥の地として知られる「埼玉古墳群」、石田三成の水攻めにも耐えた「浮き城」として知られ、映画「のぼうの城」のモデルにもなった「忍城址」といった歴史的遺産があり、特に古代史に深く結びついた地域です。

江戸時代から昭和にかけては、足袋製造業で栄え、多くの職人や工場が集まり、「日本一の足袋のまち」として全国的に知られたことから、和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田のストーリーで平成29年に埼玉県で初めて日本遺産に認定され、現在もその歴史を伝える足袋蔵や作業工程は引き継がれ、歴史と伝統が地域に根付いています。

また、およそ1,400年前の地層から出土した種が発芽した市指定天然記念物の「行田蓮」を始めとした42種12万株の花蓮が咲く公園「古代蓮の里」では、毎年夏には美しい花を咲かせ、多くの観光客が訪れます。この古代蓮の里にある高さ50メートルの「行田タワー」からは、広大な蓮池や関東平野を一望することができ、7月から10月には田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を絵具代わりに約2,8ヘクタールの巨大な絵を描いた世界最大級の「田んぼアート」を楽しむこともできます。

さらには、市内の神社仏閣や商店、民家と協働で、水鉢に季節の花々を飾る「花手水」が街中に彩りを添え、市民や国内からの来訪者のみならず、外国人観光客など多くの人の「こころ」を和ませています。

この度の寄稿を機に行田市のことを皆様にご知っていただき、わたしたちのまちを訪

れ、魅力に触れていただければ幸いです。

さて、本市では、これまで住宅が密集する市街地においては公共下水道事業を、それ以外の地域では浄化槽処理区域として、生活排水による水循環への負荷減少に取り組んできました。公共下水道は、昭和25年に合流式の単独公共下水道事業に着手し、荒川左岸北部流域下水道事業の発足後は、流域関連公共下水道として整備を進め、令和5年度末現在の下水道普及率は、約60%となっています。

一方では、昭和25年の事業開始から約70年が経過し、下水道管や昭和50年代から稼働している中継ポンプ場などの下水道施設は、経年による老朽化が著しく、改築・改修費用の増加や、人口減少、節水型社会への移行による下水道使用料の減少などによ



忍城御三階櫓と花手水

り、下水道事業を取り巻く環境は大変厳しい状況となっており、状況となっております。

こうした本市のみならず全国の市町村が抱える課題に対して、下水道施設の維持・発展には高度な技術を持つ人材の育成が欠かせないと考えますので、研修センターが提供する研修プログラムに大きな期待を寄せています。特に、若手職員にとって、研修センターで学ぶ最新の技術や知識は、本市に新しい価値をもたらす、持続可能なインフラ整備を支える力となるものと思っています。研修センターの多様なプログラムは、それぞれの地域に適した人材育成を実現する一助となり、地方自治体が直面する様々な問題に柔軟に対応できる技術者を育てる場として不可欠であり、地方の発展に多大な貢献を成されていると考えます。

また、昨今、気候変動や災害によるインフラ被害が多くみられ、本市でも災害等に備えた整備を進めています。研修センターで学んだ職員の技術や知識は、地域の安全・安心を守るために大いに役立っています。特に災害時の迅速な対応力や、環境保全に関わる技術の向上は、市民の暮らしを守るうえで重要なアイテムとなっております。

本市では、これまで28名の職員を研修に参加させていただき、講義や実習を通して

幅広い専門的な知識や技術を学ばせていただいています。

公共下水道は、持続可能なまちづくりのために欠かすことのできない重要インフラのひとつです。今後も研修センターにおかれましては、充実した研修プログラムを継続していただき、技術力の高い人材育成に対し、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



古代蓮の里と高さ50mの「行田タワー」

佐野・足利
小ロマンの旅

「研修みずのわ」と足利市

栃木県足利市都市建設部

部長 新井 正章



この度は、「研修みずの

わ」第58号への寄稿にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただきましたことに感謝申し上げます。前号(第57号)では「佐野・足利小ロマンの旅」として寄稿させていただきましたが、2号続けての登場となりますので、今回は「研修みずのわ」と足利市との関係をご紹介させていただきますと思います。

足利市は、栃木県の南西部、東京から約80kmの位置にあります。市内の中央を渡良瀬川が流れ、北には足尾山地から続く山並み、

南には関東平野へと続く田畑が広がる自然豊かなまちで、人口は現在約13万9千人です。

市内には日本最古の学校で日本遺産でもある史跡足利学校跡や足利氏ゆかりの国宝鏝阿寺などの多くの歴史的建造物と、大藤やイルミネーションで有名なあしかがフラワーパークがあり、歴史と文化、自然を感

じられるまちです。

本市の下水道事業は、昭和39年に着手し60年を迎えました。昭和52年には下水

処理施設である足利市水処理センターの運転が開始され、平成に入ると下水道普及率の向上を目指して幹線管路や面整備管路の新設工事が次々と行われました。その後、平成も後期になると既存施設の老朽化が表面

化し、管きよ更生などを中心に行う維持管理の時代に入っていました。

この間、日本下水道事業団の皆様には処理場の建設やその後の維持管理業務、戸田市の研修センターで行われる研修にと、様々な場面で大変お世話になってまいりました。

また、本紙「研修みずのわ」にも、これまで何回となく寄稿の機会をいただき、全国のみずのわの仲間の皆様に情報発信をさせていただきました。特に、前号(第57号)では本市の早川尚秀市長が足利市の魅力



とこれまでの下水道事業団との関係について寄稿させていただき、更なる本市PRの機会となりました。早川市長は、民間企業に就職後、栃木県議会議員を5期18年、その中で栃木県議会議長も務められ、令和3年5月に足利市長に就任されました。現在1期目の52歳、様々な行政課題に対し毎日エネルギーシユに取り組みれています。

これまで足利市では、「研修みずのわ」に下水道関係職員が寄稿することはありましたが、市長が寄稿するということは初めてだったこともあり、寄稿のご依頼から冊子のお届けまで渡邊先生には特段のご配慮をいただき、感謝申し上げます。掲載の写真は渡邊先生から早川市長へ完成した冊子を直接お届けいただいた際に撮影した写真（掲載写真の1枚目）ですが、この時も限られた面会時間ではありましたが、災害時の下水道

の果たす役割とその重要性について議論を深めることができました。また、全国の仲間で構成される「みずのわ」の活動についても話題が広がり、早川市長からはぜひ全国の皆さんに足利市にお越しいただきたいというお言葉もいただきました。

お届けいただいた「研修みずのわ」第57号は、市長からの提案により、本市さらには下水道事業団のPRにもつながることから、市長への来客の方の目に触れるよう市長応接室入口のテーブルに足利市をPRする冊子と一緒に置かれています。市長面会に来庁された方々が手に取ってお読みいただき、好評をいただいております。（掲載写真の2枚目）

今回、前回の「研修みずのわ」に続けての掲載となり、足利市のことを紹介させていただきました。全国の仲間の皆さんに少しでも

市長訪問



早川市長へ研修みずのわをお届け

足利市に興味をお持ちいただき、これをきっかけに来訪（来足）いただければ幸いです。

最後になりますが、日本下水道事業団の益々のご発展と、全国の下水道関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げます。あいさつとさせていただきます。



市長応接室のテーブルに置かれた研修みずのわ（第57号）



Interview



小川原湖初日の出

人材育成（技術職）の重要性

青森県東北町

町 長 長久保 耕治



この度、「研修みずのわ」の発刊に際しまして依頼をいただき、執筆することになりました。当町の職員も日本下水道事業団研修の実施設計コースを始め、多数の研修を受講し、実務に生かしている状況であり、日本下水道事業団研修センターの関係者の方々には、大変お世話になり、感謝を

申し上げる次第であります。

東北町は、青森県東部、上北郡のほぼ中央に位置します。地勢は八甲田山系の山々から続く丘陵地や台地が大部分を占め、高瀬川水系の河川沿いには平坦地が広がっています。そして、東部一帯には県内最大、全国でも十一番目の面積を誇る小川原湖があります。

ここ数年、小川原湖は過去に例がないほど水質が悪化しております。その原因は、現在解明されておりませんが、様々な要因が密接に関係しているものと考え

られます。

この重要な地域資源である「宝湖」小川原湖を次世代に引き継いでいくため、より効果的な取り組みを実施する必要がありますが、その中の一つの取り組みとして、生活・産業排水対策を掲げております。生活排水流入防止の観点から、下水道の整備、普及を更により一層強化しなければなりません。

当町の下水道の整備の始まりは、生活水準の向上・産業活動の活性化等に伴う汚水排出量の増大に起因する公共用水域の水質汚濁、生活環境の悪化が懸念され、その問題を解決するために、平成5年度、上北中央処理区（全体面積420ha）と翌平成6年度に東北処理区（全体面積380ha）について全体計画を策定し、平成8年度、2処理区同時に各49haについて第1期認可を受け、下水道事業に着手いたしましたし

た。その後、数次の認可変更を経て、現在認可を受けている内容は、上北中央処理区は面積約210haの区域と東北処理区は面積約238haの区域で現在に至っております。

予定処理区は、広域的、長期的見地にたつた土地利用の見通しを立て、本計画の目標年度である令和8年度までに整備を完了する予定であります。

全国的な問題として、人口減少が進み経営環境が厳しくなり、加えて施設の老朽化も顕著となること、地震・風水害対策、持続可能な社会の構築を踏まえた資源化の促進、技術の継承等々は、当町においても、例外ではありません。未普及対策に注力しつつも、現在稼働している下水道施設を長寿命化することが重要であり、下水道ストックマネジメント計画を策定し、施設の予防保全にも取り組み、経営戦略の改定の

積み重ねをしつつ、コストや人材を工面する必要のある喫緊の課題となっておりま。次世代に繋げるためにも、改善し最善を尽くす努力をしなければなりません。

当町の職員は、行政職の採用で、技術職での採用は実施していないため、様々な学歴及び職歴の人材から適材適所で配属しております。人事異動も概ね3年から5年を目安に広く行政事務の経験を重ねるような人事としています。配属後に経験豊富な職員と組み、前任者と綿密な事務の引継ぎや各種研修により、人材を育成し、この繋がりににより、職務を遂行している状況であります。

特に技術を要する下水道職員には、ライフラインとして、とても重要な職務となることから、他の行政職員よりも、在任年数が多くなる傾向にあります。技術的な専門知識を習得する場

として、日本下水道事業団研修センターで得る実務に則した実用的な数々の研修また、全国各地から集まった研修生同士の意見交換や情報交換により、活発な研修と伺っております。

下水道事業は、人々の生活になくてはならない社会資本であり、未普及地域への対応も残る中、新設中心から管理・更新の時代へと構造的に大きく変化しております、人口減少と施設の老朽化、国・地方を通じた財政難、技術者の恒常的な不足など、下水道事業を取り巻く環境は厳しいものとなっております。

これまで以上に社会情勢の変化や国の動向にも対応で

きるような職員の育成が求められ、着実に下水道技術者が必要となります。当町も現実を直視し、柔軟に対応していく方針であります。

最後になりましたが、下水道事業に関わる全ての自治体及び下水道事業団の皆様の一層のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



毎年夏に行われる東北町湖水まつり花火大会

訪 米 記

姉妹都市訪問で思うこと

長年培った信頼関係は人を動かす

宮城県七ヶ浜町

町 長 寺澤

薫



国際交流やグローバル化が叫ばれてから久しく、海外がとて近くなりました。情報は瞬時に世界を駆け巡り、まさに「リアルタイム」。

連日放送されるメジャーリーグ関連の日本でのテレビニュースは、大谷選手の活躍と日本人メジャーリーガーや海外で活躍するアスリートの話題は、今や多くの国民の楽しみの一つと言ってもいいのかもしれません。

そのアメリカ・ベースボールの発祥の地、ベアブルース選手が活躍したグリーンモンスタースター（壁）で知られるボストン「レッドソックス」の

ホームグラウンド、フエンウェイパーク球場があるボストン市の近郊の町が、私たち七ヶ浜町の親愛なる姉妹都市「プリマス町」であります。

人口が6万5000人ほどのアメリカ東海岸、マサチューセッツ州にある海沿いの美しい町です。1620年にイギリスからメイフラワー号に乗り込んだ102人の清教徒（ピルグリム）たちが、新天地を求めて移り住み「アメリカの故郷」として知られています。多くの観光客が年間を通して訪れるなど、アメリカ開拓の歴史に大きく関わる由緒ある町であります。

1990年10月に七ヶ浜町とプリマスは姉妹都市締結以来、隔年でお互いの町を訪問し合い友好を深め、節目となるイベントや教育サミットの懇談を行うなど、34年間という時を重ね、今日に至ります。これまで特に思い出深いのは、2020年にイギリスからプリマスに渡って400周年を祝う「記念祭」が企画され、私も姉妹都市の町長と



プリマス クインタル議長（＝市長）とネクタイ交換（さよならパーティー会場で）

して歴代アメリカ大統領とともに招待を受け、準備を進めていた矢先、「コロナ禍」により渡航を断念した経緯がありました。

七ヶ浜からの訪問は、東日本大震災とコロナ禍のため叶わない時期がありました。それでも今回で16回目となります。訪問することとなったメンバーは、私を団長として小学6年生から高校1年生ま

での子どもたち15名、大人7名の総勢22名、「チーム七ヶ浜」の名のもとに姉妹都市への訪問となりました。

プリマスとの時差は約13時間、昼夜逆転となる子どもたちの体調が心配されましたが、疲れも見せず、ホストファミリーとの初対面で臆することなく、とてもフレンドリーな様子を見て、まさに「グローバル世代」を実感した瞬間でありました。

その直後、今度は私たち大人たちへのビックプレゼント！が待っておりまして。「到着してすぐさま、ボストンフェンウェイ球場でMLB・メジャーリーグの「レッドソックス」対「シアトルマリナーズ」の試合を見に行こう！」と誘われたのです。

実は、昨年、プリマス訪問団が来町した際、仙台市で楽天イーグルスのプロ野球を観戦しました。そのときのおもてなしへの「お返し」なのか、それとも本場！メジャーリーグの試合を私たちに見せた

かったのか？…私たちにとっては願ってもない心躍るエクスカーションでありました。

その時のフェンウェイ球場は満席。席はグリーンモンスタースタールといわれる外野席の奥かな！と思いきや、なんとバックネット裏という最高の座席での試合観戦。極上の「おもてなし」の歓待だけではなく、熱気あふれる本場の圧倒的な

スケール感を味わった瞬間でもありました。

プリマスでの滞在中は、セレモニーや教育懇談会をはじめ、消防署や警察署、学校への訪問など、姉妹都市交流に長年関わってくれた人たちとの再会は、とても懐かしく、私にとっては忘れられない楽しい時間となりました。

一方、姉妹都市を締結して

34年、プリマスではいま、これまで交流に尽力されてきた人たちの高齢化が進み、交流の継承への懸念もありました。しかし、今年、実際にプリマスに行ってみると、それが杞憂に終わりました。

以前、七ヶ浜を訪問した人や子どもたちの親たちが、志をしっかりと受け継ぎ、しかも、これまで深くかわって



プロビンスでのプリマスの関係者との昼食風景（上）

プリマス町の役場 正面（下）

こなかったプリマス町職員の皆さんも積極的にサポートし、もてなしてくれたのです。

この時、「みずのわ」によく掲載される「宮山福会」の皆さんと同じく、海外においても「長年培った信頼関係は人を動かす」という想いが湧きあがり、未来につながる訪問の機会に恵まれたことに感謝したのでした。

さて、プリマスとの皆さんとの楽しい交流は、「タイム・フライズ」まさに、あつという間に過ぎ、子どもたちにとつてもホストファミリーとの時間は、人生においてかけがえない貴重な体験であったことは言うまでもありません。これまでも、七ヶ浜を訪れた多くのプリマスの子どもたちが「観光では得られない体験だった」と話をしてくれます。

35年前、本町が姉妹都市交流を掲げ、候補地を選び、調査団の派遣など、積極的に親善訪問を重ね、継続してきた姉妹都市交流。まさに「いい

出会いはお互いの町や国の印象を高めてくれる」ことを実感しております。

今、世界は「戦争」やコロナウィルスのような「疫病」、大規模な「自然災害」、そして「気候変動」など、混とんとした暗いニュースが後を絶ちません。私たちが継続してやまない「草の根の国際交流」は、私たちにできる「世界平和を希求する」ものであり、姉妹都市を通じた肩肘張らない「草の根の平和交流」を次の世代にしっかりと引き継いでいかなければなりません。私にとつても思い入れ深い魅力的なまちでの親しい友人たちとの再会、この上ない幸せな時間となりましたことに深く感謝しております。

結びに、渡辺良彦特任教授に薫陶を受けた一人として、「人を思い、人をもてなし、人とつながる」その実践は海外においても変わらないことを、我が町の姉妹都市訪問を通して実感できたことを報告させていただきます。

Plymouth our beloved sister city.

Lets continue our wonderful exchange!

Plymouth メイフラワーII号 棧橋で



訪米記

東北震災復興の絆！

袖振り合うも他生の縁

宮城県松島町会計課
課長 大宮司

綾



2024年5月下旬のとある日に、私は米国のノースカロライナ州に到着しました。

10年ぶりの渡米です。松島町の中学生のホームステイ事業の引率者として空港に到着、ホストファミリーがゲートで我々の到着を待っていてくれたことが懐かしく思い出されました。今回は同じくノースカロライナ州で毎年5月に開催される日本文化理解を目的としたイベント「アニメイズメント2024」の会場で講演のオファー（！）をいただき、東日本大震災がきっかけでアメリカのノースカロライナ州とご縁ができたことや、

自身の当時の体験をお話させていただきます。

2011年、米国ノースカロライナ州に住むポールさん一家3人は松島町に宿泊滞在中に東日本大震災に遭いました。人生で初めて経験した地震が東日本大震災の揺れ、そして町には津波が襲ってききました。滞在していたホテルには大勢の人が身を寄せ、避難所と化しました。大混乱のなか、私は震災の翌日からポールさん一家の通訳係（頼りないにも程がありますが）をすることになったのです。彼らに話を聞くと、娘さんが関西の大学への短期留学を控えて

おり、新学期が始まる前に北海道から関西まで旅をしながら南下している途中だったとのこと。娘さんの留学手続きがあるので関西に移動したいとのこと。当時は電車も新幹線も運行再開の目途もたっていなかったもので、関西までの移動手段を皆で考え、仙台市内からバスで山形に向かい、

日本海側を通って移動してもらおうと計画しました。山形へ向かうバスに乗るのは先着順。一日に運行するバスの台数も限られていました。私達は、震災から6日目の明け方に車で松島を出発し、3人をバス乗り場まで送り届けることにしました。出発の朝、避難所の玄関には見送りのため



にたくさんの方が集まっています、「気をつけてね。」「元気でね。」「またいつか松島に来てくださいね。」「とみんなのやさしいかけ声が聞こえました。バス乗り場は、に乗るための人が長蛇の列。そこに3人を並ばせ、心から無事を祈りつつお別れしました。

その後、ポール一家の娘さんは無事に関西での留学手続きも済ませ、ご両親はアメリカに戻る事ができたと知り安堵しました。しばらく経つ



と、一家のお母さん、キャスリーンさんから連絡がきたのです。「大震災で大変な状況だったにもかかわらず、我々のような外国人観光客に対しても松島の住民の人は私達を排除せずに受け入れ、優しく励ましてくれました。そして町は我々のために担当職員をつけ、より安全な移動手段を見つけてくれたことに心から感謝し、松島の復興を支援したく、アメリカで「松島救済基金」を立ち上げました。」

とのこと。その後「松島救済基金」を通じて、松島町に多額の義援金をはじめさまざまな物資が季節ごとに届けられました。さらにノースカロライナ州チャペルヒル町に中学生が招待されホームステイ事業がスタート。その後2回は町事業として展開され、ホームステイが実施されました。当時、私も引率者として同行し、海外での貴重な体験を通して子ども達の成長を見ることができました。

しかし、残念なことに町のホームステイ事業はいろいろな理由で継続が難しくなっていました。震災を契機にいただいたご縁の灯が消えてしまいかも、と憂いていたとき、ある方から「せっかくできたノースカロライナ州と松島町の縁を繋いでいきたい」と申し出がありました。その方は、ノースカロライナ州在住の青柳さんという女性で、日本文化理解を目的としたイベント「アニメイズメント」を主催されています。全米から

25,000人が集まるそのビッグイベントでは震災復興チャリティオークションも実施されており、毎年松島町にもオークション収益の一部が義援金とし送金が続けられていました。「ご縁は絶やさず、できる範囲で交流を続けていきましょう」と励まされ、今年はいベントの一環として、私が東日本大震災の経験やノースカロライナ州と松島町のご縁についてスピーチをさせていただく機会を設けてくださいました！アンビリーバボー！

「アニメイズメント」のネーミングで皆さまも想像できるかもしれませんが、これは日本のアニメファンが多数集うイベントでもあり、開会式の会場も日本のアニメのコスプレの人、人、人！そして、そのコスプレの人々が熱いまなざしを向ける先には、有名なアニメの声優さん達が！アニメに詳しくない私でも存じ上げている声優さん方や映像監督、三味線奏者、琵琶奏者、

和太鼓奏者、落語家にお作法の指導者の方などなど、日本にいてもなかなかお会いできないような方々がゲストとして招かれていました。そんななか、私もゲストのひとりとしてご紹介いただき、すっかり気後れしてしまいました。「この人誰よ!？」って会場から突っ込みが聞こえてきそう笑。エネルギーシユな会場の雰囲気圧倒されるとともに、海外の人たちにこんなにも愛される日本ってすばらしい。「I'm proud of Japan!」と感しました。

私のスピーチの内容をすべて書き綴ると長くなってしまいうので割愛しますが、松島町のことで、東日本大震災のこと、ポール一家が体験したことで、そして松島救済基金をはじめ、世界中の方々からの支援への感謝を自分の言葉で精いっぱいお伝えしてきたつもりです。私の体験など聞きに來てくださる方はいるのだろうか?と始まる前はとても不安でしたが、ありがたいこと

にたくさんの方々にお越しいただきました(中にはもちろんコスプレの方も!)。さすがアメリカ!と思ったのは、スピーチの後に質問をしてくださる方がとても多かったこと。日本の方はシャイで積極的に質問する方は少ない印象ですが、ここではみなさんが次々と質問を投げかけてくださったので、会場のみんなと一緒にいろいろなことをシェアできました。ご自身の東日本大震災の経験を涙ながらに話してくださった方もいらっしゃいました。国籍を問わず、それぞれの人の胸の中にそれぞれの震災の記憶があるのだとあらためて気づかされました。

今回の渡米ではポール一家との10年ぶりの再会もでき、あらためていただいたご縁への感謝を直接伝えることもできました。スピーチの壇上でも話しましたが、私の好きな言葉は「袖振り合うも他生の縁」。偶然の巡りあわせで出会った私達ですが、きつとこ

のご縁には大きな意味があったと思います。

そして、私の体験をみずのわに寄稿する機会を与えてくださった日本下水道事業団の渡邊良彦先生とのご縁にも感謝しております。自分の体験や心中をあらためて見直す機

会となりましたし、これからも、松島町がいただいたアメリカとのご縁を繋ぐ役割の一端を担うことができるよう微力ながら尽力したいと思ひます。ありがとうございます。お読みいただいた皆様、ありがとうございます。

私の好きな言葉

「袖振り合うも多生の縁」

道を行くとき、見知らぬ人と袖が触れ合う程度のことも前世からの因縁によるという意味から、どんな小さな事、ちょっとした人との出会いも偶然に起こるのではなく、全ての深い宿縁によって起こるのであるという事

"Even a chance acquaintance is decreed by destiny"

[研修体験記] 研修を通じて発見した日本下水道事業団 研修センターの魅力

下水道事業団研修を 振り返ると

埼玉県行田市都市整備部

部長 高橋 栄一



この度、渡邊特任教授から、「研修みずのわ」の寄稿の申し入れがあり、恐縮ではございますが、大変光栄なことでありますことから、執筆させて頂くことになりました。

私は、平成21年度の実施設計コース管きよ設計Ⅰを受講いたしました。

管きよ設計Ⅰは、下水道経験の比較的浅い職員が開削工法で下水道管を布設するための設計、施工管理、必要となる関係法令の知識習得を主な目的としており、なかには、事務職採用の職員も在籍するなど、北は、山形県山形市から、南は、沖縄県沖縄市、名護市からと全国津々浦々から総勢36名が参加した研修でした。

研修期間は、2週間で、その期間は、普段の職務から離れ、下水道の知識の習得オンリーという、社会人になって、そんな期間を頂けたことに職場の皆様や上

司に感謝の気持ちでいっぱいだったことが思い出されます。

研修は、測量や製図などは4人で1組の班編成、宿泊は6人が一つの部屋に相部屋となっており、共同作業も多く、研修生は、すぐに一体感が生まれ、お互いに和気あいあいとした雰囲気での研修でした。

これは、開講早々に開催された懇親会や現場視察研修後の懇親会など、様々な観点からお骨折り頂いた、渡邊特任教授のお力添えがあつてこそと思っております。

現在の下水道事業の状況ですが、下水道未普及解消（管きよの新設）から、ストックマネジメントやPDP等の持続可能な下水道事業の構築へとシフトしていると言っても過言ではありません。また、職員の技術の継承も大きな課題となってきました。本市におきましても、下水道全体計



研修受講生の皆さん



利根大堰

画の縮小、ストックマネジ
メント計画の策定によるポ
ンプ場や老朽管きよの改築
更新、PPPの導入等を進
めているところで、技術職
員の国家資格取得の推奨
等、職員の技術力の確保に
も努めているところです。

さて、行田市ですが、埼

玉県の北東部に位置し、東

京都心まで約60km、市の北
には利根川、南には荒川が
あり、熊谷市や鴻巣市に隣
接した、人口約7万8千人
の市です。

本市は、東日本最大の円

墳である丸墓山古墳などを

有する「埼玉（さきたま）

古墳群」をはじめ多くの古

墳があり、埼玉古墳群は、

埼玉県名の発祥の地とされ
ています。

また、映画「のぼうの城」
で石田三成の水攻めに耐え
た忍城や、水攻めのために
石田軍勢が築造した石田堤
などの歴史的遺産や江戸時
代から続く足袋の製造もさ
かんで役所広司さん主演の
テレビドラマ「陸王」も本

市が舞台となっておりま
す。

観光スポットの一つであ
る、古代蓮の里には、6月
から8月にかけて、約12万
株の蓮が咲き、園内にある
高さ50mの「行田タワー」
から見る「田んぼアート」
は、本市内外から訪れる多
く方々に喜んでいただい

るところです。

最後になりますが、今後
の下水道事業の展望は、少
子高齢化に向けた幅広い観
点からのダウンサイジング
的な事業経営が必要不可欠
となっております。そこ
で、その経営には今まで以
上の幅広い知識や見識が必
要となることから、下水
道事業団の果たす役割は、
益々、重要になってくるこ
とと思います。

本市におきましても、下
水道事業団様にストックマ
ネジメント計画の策定をお
願ひしているところで、今
後も引き続き、お力添えを
賜りたいと考えているとこ
ろでございます。

今回、このような機会を
用意していただいた、渡邊
特任教授をはじめ、下水道
事業団の皆様、並びにご一
緒した研修生の皆様の、よ
り一層のご健勝とご多幸を
ご祈念申し上げます。

事業団研修への期待と思い出そして絆

下水道事業団研修が繋ぐ ひとのわ

(公財) 福岡県下水道管理センター

常務理事 松本 裕之



この度は、「研修みずのわ」第58号発刊に際し、渡邊特任教授から直々に執筆のご依頼を頂き、心から感謝申し上げますとともに、たいそう昔のこととはなりますが、下水道事業団研修の思い出を語らせて頂きたいと存じます。

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、平成5年に機械職として福岡県庁に入庁し今年で早32

年、ついに還暦となり役職定年を迎えることとなりました。その間、19年間は、建築設備(営繕・建築指導・庁舎管理・検査等)業務、13年間は、公益財団法人福岡県下水道管理センター(旧財団法人福岡県下水道公社)に派遣され、下水道管理業務に従事して参りました。

私の研修センターとの出会いは、初めて下水道管理業務に従事した今からおおよそ四半世紀ほど前の平成13年です。入庁以来、建築設備業務ばかり従事させられて?いましたので、下水道に携われることになったことを心から喜んだことを

今でも鮮明に覚えています。と言いましても、右も左も分からないまま下水道管理に放り込まれたもので、上司から、「下水道事業団研修に行つて勉強して来い!」とのありがたい業務命令を受け、「処理場管理Ⅰ」を受講させて頂きました。この研修では、維持

管理の基礎を一通り学ぶことができた上に、当時は、全国にある下水道公社の数も現在より遥かに多く、また、研修所の寮室が8人部屋だったこともあり、毎日のように各地から集まった研修生と談話室や寮室で飲み語り、それぞれの職場での管理上の問題点や悩み事を直に聞くことができたなど、研修生同士の交流がとても印象に残る貴重な経験となりました。

2度目の研修は、更に下水道管理に対する理解を深めたいと考え、平成15年に、「管理専科設備管理」を受講させて頂きました。これ

は、設備管理に特化した研修で、ポンプなどの機械設備や電気設備を実地で扱うことにより、設備管理ポイントや点検委託の留意点など、設備の維持管理全般についてより実践的に知識が習得できるよう配慮されたもので、大変勉強になったことを記憶しています。

以上が研修体験でしたが、やはり、下水道事業団研修は、その内容もさることながら、全国各地の研修生と知り合える「わ」こそが、一番の醍醐味ではないかと感じています。研修後に職場に戻つて管理上の問題点が生じた際に、「あなたの処理場ではどのように対応されていますか?」などと気軽に訊ける仲間ができたことは、仕事を進める上で大きな糧となったことは間違いありません。

さて、次に渡邊先生との出会いについてお話させて頂きます。初めての下水道管理を3年間経験した後、



福岡みずのわ会 (2023.3.13)

県に復帰し、暫くは本庁各課にて建築設備業務に従事しておりましたが、平成22年に、再び下水道管理に従事する機会が巡って参りました。その頃には、福岡県は、8つの流域下水道に7つの浄化センター（下水処理場）を有する規模にまで発展しており、1年ほど浄

化センター業務に従事した後、旧下水道公社本社管理課長として勤務することとなりました。そこで、前任者から、「毎年3月上旬に、下水道事業団の渡邊先生が福岡にお出でになり、九州各県を行脚されるので、福岡県の窓口として対応するように。」との引継ぎを受

け、渡邊先生と先生を囲む「福岡みずのわ会」に出会うこととなりました。お陰様で、渡邊先生を通じて、福岡市をはじめとする各自自治体の皆様とも知り合いになる機会を得ることができ、更にその交流が現在も脈々と続いておりますことに、改めて先生のお人柄、「ひとのわ」力に感嘆、感謝申し上げる次第です。

私たち下水道維持管理を行う者にとって最も必要なものは、経験と知識、更にそのスキルを示す資格だと考えています。特に、県から派遣されている職員は、原則として3年後に県に復帰しなければならぬため、いかに効率的に下水道技術者を育成するかが懸案となっています。そのため、下水道管理センター職員の技術力向上、更には処理場管理を行うのに必須となる下水道法第22条資格取得のために、積極的に下水道事業団研修を受講するよ

う指導しているところであります。技術者の育成は言うまでもありませんが、何より嬉しいのは、受講した職員から、「とても勉強になりました!」とか、「全国に知り合いができました!」といった言葉をかけられることです。地方では下水道に関する専門性の高い研修を受講できる機会がほとんどありませんので、研修セ

ンターの重要性は今後も揺らぐことはないと確信しています。最後になりましたが、渡邊先生並びに日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と、「みずのわ」の更なる飛躍をご祈念申し上げますとともに、渡邊先生、3月上旬のご来福を心よりお待ちしております。

研修受講と講師の体験記

神奈川県藤沢市下水道部
下水道管路課

課 長 鈴木 豪



この度は「研修みずのわ第58号」への寄稿の機会をいただき、渡邊特任教授をはじめ研修センターの皆様

に感謝申し上げます。
また、研修センターの皆様には、常日頃より当市研

修生がお世話になっておりますことに、当市研修生を代表して、お礼申し上げます。

私が初めて、事業団研修に参加させていただいたのは、平成7年1月の「実施設計コース管きょー」で、その時のコース担当が渡邊

特任教授でした。当市の諸先輩方から「渡邊先生に挨拶して来いよ」と言われ、それから30年、お会いする機会がある時には必ず挨拶に伺い、お会いする度、『お変わりなく元気な様子ですごい!』と驚かされます。

そのようなご縁があり、今回、お声がけをいただいたこと、大変光栄に思っております。

私は平成6年度に藤沢市に入庁し、下水道維持課排水設備担当に配属されてから、管路施設の維持管理、管路施設及び処理場の工事の設計・積算・現場管理、計画策定、ふじさわ下水道ビジョンに掲げた目標や方針

を実現するためのマネジメント業務に携わり、下水道事業通算26年目を迎えております。

長く下水道事業に携わっておりますが、私にとつては下水道事業団はなくてはならないものと考えております。

私は業務が変わるごとに、研修センター、地方、オンライン、オンデマンドをフル活用して各種研修の受講させていただいております。

研修の申し込みをする際には、〃またお前か〃と上司に言われておりますが、受講するそれぞれの研修で、基礎的な部分や最新の情報を得られ、自己評価高めですが研修の成果として業務に活かすことができていると思っております。

また、それぞれの研修での座学、ディスカッションや施設見学等において知識見分を深めるとともに、講師のお手伝いをさせていた

だいくこともあり、今までの実体験をお話しさせていただきながら、逆に自分が疑問に思っていることを投げかけさせていただいたり非常に有意義に活用させていただいております。特別な時間を過ごさせていただき先生方や研修生との交流から「人のネットワーク」を作ることができ、大きな財産となっております。

また、講義の時間だけでなく、全国各地の方々と毎晩のように業務を離れたリラクセスした状態で様々な議論を重ねた時間を過ご

したことも研修での楽しい思い出となっております。

これは多くの研修生の思い出となっていることと思います。

ですので、私が事業団研修に期待することは、オンラインやオンデマンドでの研修が増える中であっても、研修センターでの対面での研修を数多く開催していただくことです。

オンラインやオンデマンド研修は出張せずに受けられる利点もありますが、先生方や研修生と直接意見交換ができる対面での研修



が、「みずのわ」の由来である、水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がるように研修生の輪が大きくなると思うからです。

また、これからの下水道事業は、人口減少、厳しい財政状況、脆弱な執行体制など厳しい状況の中、社会・経済情勢の変化や下水道に求められる役割の変化、市民ニーズなどの観点から下水道のあり方を整理し事業運営を行わなければなりません。

今後、良好な事業運営を継続するためには、広域化・共同化の推進にもあるように、複数市町村等による統合、維持管理業務の共同化、ICT活用による集中管理などの効率的な運営に資する取組が本当に必要なとなった時に、この「みずのわ」が大きな力を発揮するのではないのでしょうか。

そのためにも、より一層、未来を担う職員「みずのわ

「げすいびと」たち」※の育成・継承にご尽力いただきますよう期待いたします。

研修センターが、貴重な技術継承・教育の場としてこれからもご発展されることと思っており、自らが受講するだけでなく、ふじさわ下水道ビジョン【施策14】持続可能な運営体制・組織基盤の強化に則り、未来を担う職員「みずのわげすいびと」たちに、『事業団研修は必要なスキルの習得に勤めながら、全国各地の方々との交流の中で絆を深められる、大変得難い経験できる場所』として、積極的に受講を勧めているところでございます。

結びに、下水道事業団のますますのご発展と研修センターの皆様、そして下水道及び各分野でご活躍されている皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

※研修みずのわ Vol. 55

2022 P. 7 参照

事業団研修の思い出

山口県萩市農林水産部
農林水産整備課

課長 堀 稔男



引き受けすることにしました。せっかくの機会を頂きましたので、研修の思い出や、現在の近況をご報告させていただきます。

この度は、「研修みずのわ」への執筆の機会を頂き、大変ありがとうございます。執筆のお話を頂いた渡邊先生とは、ここ数年は年に1、2回程度、電話で近況をご報告させて頂いておりましたが、今回は「研修みずのわ」の執筆のご依頼であり、内心はお断りしようかとも思いましたが、渡邊先生のいつもの勢いに押され、不安ながらも、お

事業団研修への参加（渡邊先生との出会い）は、平成25年です。もう11年前になります。当時は、下水道建設課に配属となり2年目で、年度当初に雨水函渠工事を発注し、現場の着手を見届けた後に「実施設計コース 管きょ設計Ⅱ」を受講しました。その年の下半期には推進工事の発注も予定していたので、この研修で専門技術を習得したいと期待をもって研修に臨みました。

私は、幹事や副幹事ではありませんでしたが、研修期間中は渡邊先生や講師の先生方との昼夜の交流を深めることができたのが、とても良い思い出として記憶しています。特に渡邊先生の考え方に直接触れることができたことは、私の人生

にも大きく影響を与えた出来事でした。なんとか研修を無事に終え、職場に戻り研修の成果を上司に報告した際に、上司から「堀、安心しろ、現場は研修に行く前とまったく変わっていない。」との話があり、工事着手直後に



萩市内の全景

想定外の湧水の発生により、補助工法の再検討が必要な状況になっていたとの説明がありました。現場が順調に進んでいると思っていた私は、説明を聞きたいへん落胆しましたが、早速、研修で習得した知識が生かされ、工法変更の対応を進めることができたことは、研修に行った大きな成果の一つでした。また、その年は、7月28日に山口・島根豪雨災害が発生し、考えもしなかった、下水処理場が豪雨による土砂流入で被災し、処理機能が停止するという災難にも見舞われました。人生で滅多に直面することがないような種類の災害復旧工事にも従事することになり、事業団研修を受講したこの平成25年は、大変記憶に残る一年となりました。

現在は、農林水産整備課で、農業施設・林業施設・漁港施設等の建設、維持管理の業務を担当しています。



菊屋横町

す。これまで所属した、土木課や下水道建設課と同様で、公共インフラの維持管理は共通する最大の課題となっています。限られた予算の中で、どのように施設を維持していくのか、また将来、後輩たちにどのような形で施設を引き渡せば良いのか、明確な答えを導けない日々が続いています。2回目の下水道建設課の配属となった、令和2年～令和4年には、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業・漁業・林業集落排水の全施設（25処理区）の施

設維持計画（長期計画）を策定しましたが、その時と同じように、今は、農業・林業・漁港施設の維持管理計画の検討（見直し）を進めています。来年度には、所管するすべての施設の長期計画を策定し、これまでに、方向付けをしたいと考えています。

ここ数年は、技術系職員の新規採用の募集を行っても応募がない状況が続いており、組織の体制をどうしていくのかという課題にも直面しています。全国の自治体の皆さんも共通の悩みをお持ちではないかと推測いたします。こういう時だからこそ、事業団研修は、同じ悩みを持つ自治体職員の情報共有の場としても重要な役割を担っているのではないかと考えています。事業団研修は、時代の流れの中で変化する内容も当然あると思いますが、この事

業団研修しかない「絆」を大切にする場については、今後変わらないに守って頂くことを最後にお願ひし、

拙い文章で申し訳ありませんが、寄稿させて頂きます。追伸、渡邊先生との再会を楽しみにしています。

事業団研修を振り返って

青森県東北町上下水道課下水道係

総括主幹 蛸名 真一



した。そんな私に今回、渡邊特任教授から、原稿依頼のお話をいただいた時は大変驚きました。このような経験は無かったので、拙い文章となりますが、お許しください。

この度は、「研修みずのわ」への執筆機会をいただき誠にありがとうございます。私は、令和5年度第4回「管きょ設計Ⅰ」に参加しました。研修では参加者皆様の協力を得て、何とか幹事を務めることができました。

本研修には、学校でいうところの学級長のような「幹事」という役割があるのですが、参加した研修生の中には、なぜ私が幹事になったんだろうと思ってる方もいらっしゃると思いますので、この場を借りて

経緯を説明させていただこうと思います。お恥ずかしい話なのですが、実は研修参加前に提出しなければならなかった情報交換資料の提出を年末の忙しさにかまけて失念しており、渡邊特任教授から確認の電話（お叱り？）をいただき、その事が渡邊特任教授との初めての会話でした。お会いする前にもかかわらず迷惑をかけてしまい、とても申し訳ないという気持ちで電話をしていたときに、ところで幹事をやってみる？とお話をいただきました。当然この流れで断れる訳もなく、これもまた運命だと思いい、人前で話したりするのは苦手でしたが、引き受けた次第でした。今振り返るとやってみて良かったと思っております。当たり前の事で、皆さんは大丈夫だと思いますが、提出期限には気をつけましょう。

それでは本題に戻りますが、当町では技術職の採用

が無く技師がいまさんので、歴代の下水道工事担当者より、工事担当になるのであれば、この研修は必ず行くべきだと聞いており、今回参加させていただきました。しかし、私の年齢が43歳ということもあり研修に参加する前は、若い人ばかりだったらどうしよう、上手くやっついていけるだろうか、ついていけなかったら恥ずかしいなあという思いでとても不安でしたが、いざ参加してみると、若い方の参加が多かったのですが、同年代の方々も参加されていて雰囲気も良かったと思います。また、時間配分も個人的にはちょうど良く、難易度についてもついていけないという事はありませんでした。

研修内容は、下水道概説から始まり、管路施設、管きょ断面の設計や流量計算、数量計算、積算演習、管きょの施工管理等、下水道行政の経験の浅い私に

としては正に知りたかった事が分かりやすいように順序立てられ、かつ網羅された内容だと感じました。私は過去に建設課に在籍していた時に河川工事を担当したことがあり、土木用語についても大体理解していたつもりでしたが、改めて下水道の決まりや、工事についての注意点や数量計算の方法など、とても勉強になりました。設計図作成演習では、分かっていたつもりだった事柄が自分で作図することによって、研修参加前よりも理解度が深まりました。

研修に参加してみて感じたことは、基本的な事柄から丁寧な説明があり、実習、演習については各班に分かれ作業を行い、班ごとに担当の講師がついて下さり疑問に思った事を質問し易い環境が素晴らしいと感じました。

若い方はもちろんですが、下水道行政の経験が浅

い方や私のような年齢で、研修に参加をためらっている方は、迷わず研修に参加することをお勧めします。結びに、渡邊特任教授をはじめとした講師の方々や研修センターの職員の皆様には、とてもお世話になりました。

全国から参加されました研修生の皆様、大変お世話になりました。これを機に各種研修に積極的に参加していこうと思いますので、どこかで会うことがありましたら気軽に声をかけてくださると嬉しいです。



小川原湖畔の千本桜

事業団研修の思い出と受講して得たもの

研修で学ぶ大切なこと

群馬県玉村町上下水道課

課 長 上村 明弘



この度は、「研修みずのわ」第58号の発刊に際し、歴史を感じると共に、寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。渡邊良彦特任教授からお声を掛けていただいた際には、教授の変わらぬお元氣な様子に驚かされました。

さて、私が平成25年に参加した研修の際は、諸先輩から「戸田の研修」と引き継がれ、今日も日本下水道

団研修と言わず「戸田の研修」としています。この研修は、下水道事業に従事する者にとって貴重な学びの場であり、私自身もその経験を日々の業務に活かしています。実際、玉村町上下水道課下水道工務係は2名体制ですが、私を含めて全員（3名）がお世話になっています。

まず初めに、玉村町についてご紹介いたします。玉村町は群馬県南部に位置し、周囲を4つの市に囲まれています。中央北側には利根川が流れ、南側には烏川が流れる平坦な地形で、赤城山、榛名山、妙義山一望できる面積25.78平

水田に映る幻想的な花火



方キロメートルの美しい小さな田園都市です。特に、米麦の二毛作による農業が盛んであり、春には麦が、秋には稲が黄金色に色づく風景は地域の風物詩となっています。また、関越自動車道高崎玉村スマートICの開通により交通アクセスが向上し、工業団地の増設・拡張が進んでいます。この

ように、玉村町は農業と工業が共存する住みやすい町づくりを目指しています。さらに、自慢したい点として毎年7月に開催される花火大会があります。この花火大会は田んぼの中で打ち上げられ、水田に映る花火の幻想的な姿は多くの人々を魅了しています。玉村町は、このような自然と文化

が調和した地域です。

下水道施設では、県央10市町村で構成される群馬県内最大規模の流域下水道・県央水質浄化センターが位置しています。この処理施設建設当時に渡邊教授が携わったことを伺い、教授との縁を感じるとともに、その親しみが深まったことを思い出します。このような污水处理施設に恵まれ、町内全域を公共下水道として整備し、令和8年度末に概成する予定です。

続いて、私が「管きよ設計Ⅱ実施設計」に参加した際の経験についてお話しします。下水道工務係長に就任してから5年が経過し、十分な経験を積んだ状態で知識を深める気持ちで臨みました。しかし研修の17日間に下水道事業の根本的な考え方や日々進化する工法など、多くの観点から新たな気づきを得ることができました。

研修センターでの日本下

水道事業団の教授や各種専門官からの講義は非常に有意義で、知識を深めるには十分な内容でした。また、視察や実験では雨水管きよの模型による雨水の動きや砂質土による液状化のメカニズムを実際に体験することで、映像だけでは感じられない臨場感を得ることができました。それだけでも参加する意義がありました。が、「戸田の研修」の私が感じた醍醐味は、全国各地から集まった研修生との意見交換です。講義後の時間を使って語り合い、業務での経験談を聞くことで、多様な視点を獲得することができました。その話では、下水道管きよを整備する際に考慮すべき要素が多岐にわたることがわかりました。全国各地の地形や地質、地下水位、降雨量、積雪など自然環境だけでなく、住宅街事情や交通事情など生活環境も異なるため、それぞれの地域で直面する課題は

様々です。このような多様性を理解することは、今後の業務において非常に重要だと感じましたし、皆さんが様々な事情に向き合っていることを印象深く覚えています。

最近ではオンライン研修が普及し、費用や時間の短縮が図られています。その一方で対面での交流や意見交換の機会が失われつつあります。下水道事業が取り巻く環境が、施設では新設改良から更生改築へと形を変え、経営では官民連携手法が取り入れられている状況となっていることを踏まえても、この「戸田の研修」のような貴重な経験を通じて知識と見識を深める意義は変わらぬものであると確信します。

最後になりますが、現在も「戸田の研修」に参加する機会をいただいていることに感謝申し上げます。日本下水道事業団の益々のご発展と渡邊特任教授のお変

わりない元気な様子、研修センターの皆さま方、そして当時一緒に研修に参加した皆さま方のご活躍とご健勝を心より祈念いたします。

す。この貴重な経験を通じて得た知識や人脈を大切にしながら、今後も地域社会に貢献できるよう努めてまいります。



春には麦が、秋には稲が黄金色に色づく風景は地域の風物詩

5回の研修受講で得た事

事業団研修を振り返って

(公財) 広島県下水道公社三原支所

技師 川高 未侑



この度は「研修みずのわ」第58号の発刊おめでとうございませう。栗田先生よりお声かけいただいた時は大変驚きましたが、2年間でオンラインも含め計5科目の研修を受けさせていだいたご恩に少しでもお返しになればと思ひ、筆を執らせていただきました。このような寄稿は初めてですが、研修を振り返りたいと

思ひます。

まず、私が勤める浄化センターについてご紹介します。沼田川(ぬたがわ)浄化センターは広島県の三原市、東広島市を処理区域とした沼田川流域下水道の終末処理場です。県内3か所ある流域下水道で一番新しく、処理を開始したのは平成8年3月で歴史としてはおよそ30年になります。広島県の空の玄関口である広島空港も処理区域に含まれており、来県された皆様には快適に水を使用していただけるよう頑張つております。浄化センターは沼田川の河口に位置しており、対岸には瀬戸内海国立公園の

区域に指定されている筆影山がそびえ、春には桜で彩られる様子がよく見えます。また、場内においては建物屋上に上るとどこからでも瀬戸内海の景色が見渡すことができる自然豊かな場所となっております。

さて、私、下水道行政については昨年度異動したばかりの2年目で県職員としても若手でありませうので、ありがたいことにたくさん研修を受ける機会をいただきました。受けた研修は「知つて安心! 下水処理場管理の基本」「水質管理Ⅰ」「水質管理Ⅱ」「水処理施設の管理指標の活かし方」「水質管理のトラブル対応」の5科目です。今回は特に印象深い「水質管理Ⅰ」を中心に振り返りたいと思ひます。受講したのは下水道公社に異動して1年目の秋で、やつと新しい職場や仕事内容にも慣れてきたかという頃でした。知識も経験も浅く、知らないことだら

けで臨んだ研修は新たな学びの連続で、毎日増えたいく情報在必死で飲み込みながらなんとか講義についていくことができました。

研修日程は土日をはさんでいたので、10日間研修センターにお世話になりました。合計8日間の講義日数の内、初日と最終日の座学を除いた6日間は水質や活性汚泥等の試験で、限られた時間の中で膨大な試験項目を四苦八苦しながらこなす日々を送り、毎日くたくたになっていたことをよく覚えております。特に慣れない試験項目については先生方や班員の皆さんに支えられながらどうにか乗り越えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

一口に試験と言っても、その項目によつてかかる手間は全く違ひ、また試験の頻度も違ひうため、日常になつてゐるものから委託に出して自分では全く手を付けないものまであります。

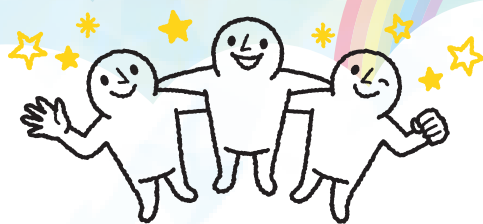
普段は数字しか見ていないような項目の試験も自分の手で行ったというのはとても良い経験でした。また、研修用のサンプルは近隣の浄化センターで採水させていただきましたが、自分が勤める浄化センター以外の数値を目にする機会というものもなかなか無く、そもそもの程度の数値（試験項目によっては逆算して希釈が必要なものもある）が出てくるかという情報も少ないところからの開始だったので、日々の試験業務だけでは得られない貴重な経験をさせていただきました。

研修生活においては、学習スペースや談話室で他の受講生の皆さんとお話する機会に恵まれ、講義の復習や宿題となった部分の相談をしたり雑談をしたりと、たくさん交流ができてとても有意義な寮生活を送ることができました。たった一人のマンホールカード収集者による「下水道の関

係者たる者！」という啓発をきっかけにして、カード収集者の輪が広がったのはとても思い出深い出来事です。研修生は全国様々などころから様々な年齢層で集まっていたので、出身地方の何気ない話、気候や地域の違いによる処理場事情の違いや自治体職員としての経験談等、様々な話題で情報交換ができたことは思いもよらない収穫になりました。特に講義の内外で聞ける他の浄化センターの話は、自分の職場にも通ずる内容から初めて聞くような内容まで多岐にわたり、大きな学びになりました。

最後になりましたが、5回の研修でお世話になりました講師の皆様、寮生活を支援してくださった研修センターの皆様、同期研修生の皆様に感謝申し上げます。そして、日本下水道事業団様の益々の発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。





研修生だより

受講生と講師を体験して
得た事

福島県須賀川市上下水道部

部長 安田 昭



を務めさせていただき、その後、宮城、山形の「宮山会」に福島として参加させていただき「宮山福会」として現在も親交を深めていただいております。

この度は、渡邊良彦特任教授より「研修みずのわ」第58号への寄稿について、依頼のお電話をいただき、私でいいのかと戸惑いながらも、お世話になつて渡邊特任教授の依頼であればと決心し、お引き受けし執筆させていただきました。

私は、平成3年に須賀川市へ入庁し今年で34年目を迎えています。その中で、下水道及び農業集落排水事業に携わっている期間が合わせても17年間と公務員生活の半分と長いわけではありません。しかし、下水道事業に始めて携わった際の上司である方に下水道とはどのようなものを日常的に教わりながら、下水道建設、維持管理に従事する中で、さらに下水道のレベル

アップのために下水道事業団研修を勧められ受講しました。

下水道事業団の研修は2回受講させていただいており、1回目は、平成21年に「管きょ設計Ⅱ」を受講させていただいた際に渡邊特任教授にお世話になりました。さらに翌年の、平成22年に「処理場管理Ⅱ」の研修を受講し2年連続で下水道事業団にお世話になりました。

研修を受講した際には、渡邊特任教授には、研修期間中の下水道事業団での過ごし方や受講科目などについて丁寧な教えていただいた覚えがあります。また、各科目の先生方にも丁寧に教えていただき自分の下水道事業の基礎となったと考えています。さらには、研修と一緒に受講した他市等の職員の方々と時間が空いているときは、いろんなことを話し親睦を深めることができました。

「処理場管理Ⅱ」を受講した年度末の平成23年3月11日発生の東日本大震災を経験し下水道管きょ施設及び農業集落排水管きょ施設の災害対応に携わったことから、渡邊特任教授より震災対応等の新たな講座を行うとお話をいただき、平成25年その中で講師をしていただけないかと依頼を受け、当初は迷いましたが、当時は上司に相談したところ、講師依頼は「業務等の予定がなければ引き受けなさい」と言われ、「東日本大震災による液状化」「復興の現状と取り組みについて」と2つの講座の講師を引き受け務めさせていただきました。

引き受けた当時は、あまり深く考えず資料等を作成し講座に臨みましたが、受講生を前にすると緊張するなどし、自分が受講生の時であれば講師の方は堂々とどんなことにも明確に答えていただいております

が、いざ自分が講師を務めると、あまりうまくいかなかった記憶があります。

この講座においては、その後も講師を務めさせていただき、回を重ねるたびに資料を修正し、また、受講生に少しでも理解していただき、今後、役に立てていただきたいと自分でも再度、資料等を確認し理解を深め講座に挑みました。

なお、この講座は、平成28年で終了し下水道事業団の講師は、終わりがかなと思っていたのですが、その後も、「災害査定」や「流域治水」と違う講座においても依頼を受け講師を務めさせていただきました。

自分が「受講生」「講師」両方の立場で下水道事業団研修を経験しましたが、受講生の際は、下水道について講師の方から教えていただくとともに、一緒に受講した受講生と下水道について意見を交換するなど、今の自分の下水道の基礎と

なっていると思っています。

また、講師を務めさせていただき、自分で教える立場であることから、下水道時についてさらなる理解を深めるなどすることができたと、今では考えています。さらには、下水道に携わる方々と知り合ったことが、自分の財産となっていると思っています。

最後になりますが、大変お世話になっている渡邊特任教授及び「受講生」「講師」としてお世話になっている下水道事業団研修センターの益々の発展をお祈り申し上げます。



30数年ぶりの講師体験 「さて、私に務まるのだろうか？」

(元)宮城県仙台市太白区

副区長 身崎 尚



師をしなさい」との電話があり、経験の浅い人間が務まるのかと不安でいっぱいの中、何とかやり終えましたが、緊張していたせい内容ほとんど記憶していません。

渡邊良彦特任教授から、今回の講師の話をいただいた時、初めに頭に浮かんだことは「さて、私に務まるのだろうか？」でした。

渡邊先生とのつきあいは、昭和56年から3年間の事業団派遣時代にさかのぼりますので、相当長い年月になります。当時、東京支社設計第一課に在籍していた私の元に、まだ面識のなかった先生から「研修の講

師をしなさい」との電話があり、経験の浅い人間が務まるのかと不安でいっぱいの中、何とかやり終えましたが、緊張していたせい内容ほとんど記憶していません。

先生には、それ以降、いろいろな場所に連れていかけていただき、住まいが近かったこともあって、夜遅くまで付き合っていたいたものでした。私が仙台に戻ってから関係は途切れず、近くに用事があるときには寄っていたいただき、寄れないときでも電話をいただいていた。

そのような中、この「みずのわ」でもおなじみの「宮山会（現…宮山福会）」が立ち上がりましたが、私は研修生ではなかったのが当初は参加していなかったものの、いつのまにか仲間に加わっていて、今では私の大事な年中行事となっています。

講師の話は昨秋の宮山福会の折、先生から打診されたものでした。

私の市役所での経歴は、前半が下水道で後半が緑と大きく分けられます。下水道事業に携わった20年弱は、主に下水道管布設に関わるもので、開削・推進・シールド工事の設計・監督や標準図・共通仕様書・共通代価などの見直し・改訂

などに携わりました。平成8年に緑部門に異動し、「百年の杜づくり」事業に当初から携わることになり、その後下水道部門に戻ることはありませんでした。

ここで少し、「百年の杜づくり」を説明させていただきます。

仙台市は「杜の都」と呼ばれていますが、これは藩政時代から明治、大正と営々と育まれてきた緑に包まれるまちの姿からでした。平成8年頃、当時の市長が都市化とともに形骸化しつつあるその姿に危惧をもち、「百年の杜づくり」を提唱しはじめました。この「百年の杜づくり」ですが、長く育んできた「杜の都」の風土を生かし、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、長期的な視点で「みどりと共生する都市」を創造し、未来へ継承していくというものです。この「百年の杜づくり」は、市長が3代変わっても事業

として今も続いています。自分の役所生活を振り返ってみると、下水道事業への未練はありましたが、仙台のアイデンティティとも言える「杜の都」に直結する

事業に携われたことは、大変なこともありましたがやりがいもあり、充実したものであったと今でも思っています。因みに、「杜」という字ですが、山などに自然に生えている樹木や草花だけではなく、そのまちに暮らす人々が協力し合い、長い年月をかけて育んできた豊かな緑のことを表現するのに対応しいものとして使用しています。

「百年の杜づくり」の説明は以上にして、話を元に戻します。

このように下水道の経験から20数年、最後の研修講師からは30数年の空白期間が生じておりましたので、先生から打診されたとき、初めに思ったのは先に記したことでした。自信がな

かったため最初は辞退したのですが、先生の励ましもあって、やってみようということになりました。

今回、先生から託されたのは、6月研修の実施設計コース管きよ基礎専攻と7月研修の実施設計コース管きよ設計Iの、それぞれに組み込まれている現場踏査及び設計図作成実習でした。この実習は管を布設するにあたって、事前調査や測量方法を現場に向いて実践し、必要な作業やどの

ような点に注意を払うかなどを習得するとともに、そこで得られた情報をもとに、研修生それぞれが実際に設計図を作成するという内容です。私の役割は、現場における作業手順や配慮事項、設計図の書き方などについて、作業に則して指導やアドバイスをするというものです。

実習する作業内容については、私が実際に行っていた頃とは、だいぶ変わっているだろうと思っています



たが、事前に先生から送られてきた資料を拝見しますと、変わっているところはもちろんあるのですが、全体として大きく戸惑うところはありませんでした。また、一緒に講師を務めるのが、経験豊富な米沢市の石山さんという、宮山福会の頼りになる仲間であることも、私としては心強く思ったものでした。

実際、6月及び7月のコース講師を経験してみて、至らない点はもちろんありましたが、何とか役割を果たせたように思います。またこのような機会がありましたら、今回の経験を活かし、研修生により多くの成果を得ていただけるよう、取り組んでいこうと考えています。私のように下水道から長く遠ざかっていても、お役に立てることはありそうです。OBの皆さん、一度講師にチャレンジしてはいかがでしょう

OB講師としての貢献

(元) 栃木県佐野市都市建設部
部長 成瀬 重雄



はじめに

この度は、日本下水道事業団研修センター「研修みずのわ」への寄稿ご依頼を頂き感謝申し上げます。

私は、今から48年前の昭和52年、当時の栃木県葛生町役場（人口約1万6千人余）に土木技師として勤務しました。勤務当初は、専門職員も少なく、地元の県の土木事務所に出向し、自

ら測量して図面を起こし設計書を作成することから覚え、工事を発注し工事完了まで監督員として従事する時代でした。平成の大合併を経て佐野市役所を令和27年3月の定年退職まで38年間を地方公務員として仕事をしてまいりました。

時代の世相

敗戦後の昭和20年から、日本の高度経済成長は、昭和40年代末のオイルショックまで続きましたが、私が就職した昭和50年代はその勢いが地方にも大きく及び日本各地で都市の基盤となるインフラ整備が盛んに行

われました。公共事業の予算額や職員数は毎年増大する中にあり、土木費の予算額は増額要求をしなくても、年度途中に追加予算が組まれてしまう程潤沢でしたが、公務員のなり手は少

なく、人手不足と重なり残業が当り前の時代でした。更に、時の総理大臣が著した、日本列島改造論の勢いは私の住む小さな町にも及び市街地のみならず農地や山林までも工業団地、宅



地、ゴルフ場などの開発が展開され、不動産バブルで浮かれていた時代でもありました。社会生活は、モータリゼーションの真つただ中、道路建設が盛んに進められ、高速道路や高規格道路の整備に伴い、地方のアクセス道路の整備や区画整理事業が主要な仕事でした。

経験した仕事

前半の主な仕事は、道路整備に携わりましたが、小さな町でしたので公共工事に係る河川工事や箱もの建設、ゴミ処理場建設等、他の公共施設の整備プロジェクトなど何でもあるの仕事に多忙な毎日でしたが、やりがいを感じながら約20年間勤めました。

後半の主な仕事は、平成20年頃のリーマンショック後になりますが、「脱ダム宣言」が注目されるようになると、予算配分は土木事



業費を縮小し福祉事業費を増大する方向に大きく転換されていきました。土木予算の使い道もしだいに新設費から更新・維持管理費へと急激にシフトしていく中で、成熟した社会に移行したと言われましたが、景気は低迷し「失われた30年」と今日まで言われ続けています。

象徴的な出来事は、日本各地が多発する地震や豪雨、気候変動などの大きな自然災害に見舞われ、特に令和23年3月の東日本大震

災は津波による原発事故も起こり、自然の脅威を映像で見せつけられました。私たちの価値観を大きく変える出来事であり、通常の仕事に加え、自然災害を常に意識しながら退職まで街づくりや下水道事業に係わり続けることが出来ました。

研修センターとのご縁

昭和40年代に発生した水俣病、赤潮被害など、工場や生活排水の水質悪化が起因する公害が社会問題とし

て大きく取り上げられていました。また、大気も自動車や工場の排ガス汚染による公害問題も併せてあり、地球環境が大きなテーマとなっていました。この頃から下水道事業の汚水処理が注目を浴び拡大していった。

下水道事業団研修センターは昭和47年に創設されて52年目、水環境の改善に携わる人材育成を使命に、研修センターの受講者は8万人を超えていると聞いています。日本各地で今日の下水道行政を地道に支え続けています。各地の川や湖沼がきれいになり、テレビで東京の多摩川に沢山の鮎の遡上が放映されるなど、下水道事業に光が当てられています。

私と研修センターとの係わりは、平成17年合併後の佐野市役所の先輩で現在研修センターOB講師でもある片柳栄先生に薫陶を受けました。この頃に下水道事



業団特任教授の渡辺良彦先生をご紹介していただき交流を深めるご縁をいただきました。

私は退職後も三程度佐野市の下水道水洗化工事の検査業務を経験した関係もあり、渡辺特任教授からお声掛け頂き、令和4年度からOB講師として排水設備実務コース『水洗化の普及促進』と『排水設備工事の諸手続きと検査』を担当させて頂いております。

下水道行政への想い

OB講師として三年目を迎えたところですが、日本各地の下水道行政に係る初任者の研修生の皆様との交流は、若い頃を思いだしながら新鮮な感覚で臨んでいます。

研修生の皆様は、約6割が技術系職員、残り4割が事務系職員、女性職員も僅かに加わり私の時代では適わなかった多様な人材で構成されています。

この時代の市民生活に即

した、公務員育成の一端を担えればと心掛けています。

今や、持続可能な社会（SDGs）が世界の共通テーマとなつています。裏を返せば、日常生活の破綻が迫ってきている。地球資源の枯渇が明らかになっていく。月や火星に移住しないと困難な事態になることを想定し、宇宙開発が盛んに進められ始めたのか？…戦争も絶えず先行きの不透明な時代です。

私の担当するコースは、下水道行政の中でも今を生きる市民の皆様と窓口で直接係わる、水洗化手続き、宅内排水設備工事の検査業務に携わる初任者の研修生です。市民生活が清潔で健康やかな快適な社会生活を営むための最初の手続きとして、普及促進と排水設備の品質確保について、分かりやすく、効率的な実務が進められるよう説明していますが、核心は、市民や指定

工事店の皆さんから『信頼』が得られる職員としての実務が求められていることを特にお伝えしています。

講師としては、経験が浅く力量不足ですが、初任者の皆様にやりがいと誇りのもてる仕事に励んでいただけるよう、今までの経験を伝えられれば社会貢献の一助になると想っています。

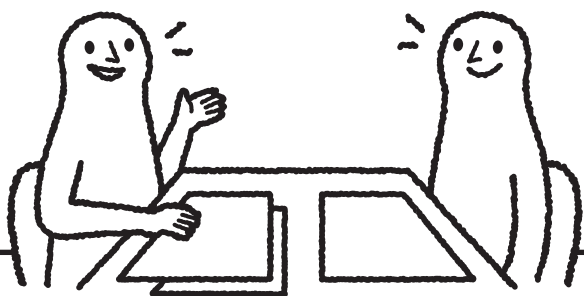
近況と地元PR

私の日常生活は、年に1回か2回程度研修センターの講師を勤めています。ほぼ毎日地元で、コミュニティ協議会の事務局長としてイベントのお手伝い、市の観光施設である鍾乳洞窟の管理、また家庭菜園（大根、ジャガイモ、白菜、ハーブ栽培など）他にも孫4人に（自作のピザ窯でピザ焼き、手打ちそばなど提供）、時たまゴルフと旅行にも意外と多忙な日々を過ごしています。一日があつと言う

間に過ぎていきます。

最後になりますが、地元佐野市に来る機会があれば佐野プレミアムアウトレットに寄り美味しい佐野ラーメン・イモフライを食べ、自宅近くにある穴場の宇津野洞窟を見学してみても如何でしょうか。お待ちしております。





JS研修業務 運営座談会

地方公共団体OB講師が語る、 未来を支える人材の育成とそのやりがい

【出席者】

山田 助義 (元) 東京都・日本下水道事業団研修部助教授
片柳 栄 (元) 栃木県佐野市市民生活部長
土屋 誠 (元) 埼玉県新座市上下水道部長
石山 哲 (元) 山形県米沢市上下水道部下水道課長
船倉 宏 (元) 広島県廿日市市建設部技術管理監
渡邊 良彦 日本下水道事業団研修センター特任教授

【座長】

辻田 威夫 日本下水道事業団研修センター次長(兼)研修企画課長

【事務局】

岸本 涼一 日本下水道事業団研修センター研修企画課長代理

JSが持続的な下水道事業の発展及び人材育成に引き続き貢献していくためには、地方公共団体OBなど、豊富な知識や経験を持つ研修講師の持続的確保が不可欠であるため、このたび「研修講師登録制度」を創設しました。今回は地方公共団体を退職された後もJS研修で講師としてご活躍いただいている皆さんに、講師としてのやりがいや求められる講師像などを伝えていただくことで、全国の皆様に研修講師に対して関心を持ってもらえたらと座談会を企画しました。

現役時代の 下水道事業への関わり

辻田 司会進行を務めさせて

いただきます次長の辻

田と申します。初めに自

己紹介も兼ねまして、皆

さんの現役時代の下水道

事業への関わりについて

お話を聞かせていただけ

ますでしょうか。

山田 東京都OBの山田と

申します。私は東京都下

水道局に入局以来、退職

するまで36年間下水道一

筋で、現役時代は処理場



辻田氏

の維持管理、工事監督、事業計画や施設計画の仕事に携わってまいりました。中でも国庫補助金をもらうために当時の建設省に日参し事業説明をしたことやJ S 研修部に向向して研修講師をさせていただいたことが私の貴重な経験になっています。

片柳 昭和50年4月に佐野市へ入庁し、新設したばかりの下水道課工務係に配属になり、主に管路の工事を担当することにな

りました。昭和56年度には事業団の研修を受講しました。とても有意義な研修でした。昭和62年度からは処理場の増設に携わり、管路とまた違った形で、いい勉強になりました。平成になってからはあちこち異動して、20年ぶりに下水道課長として戻ったのですが、1年でまた別の部署へ異動。その間、平成7年頃には栃木県では当時最大級の3千人規模の農集を担当しました。いろいろやってきましたが、退職が平

成23年3月、東日本大震災の年でした。その退職する年度に渡邊先生からお誘いがあって初めて研修講師を務めました。

土屋

新座市に昭和53年に入庁して、道路河川課に4年、下水道課に8年、また道路河川に戻って6年、その後下水道関連に20年ですから、下水道関連には通算28年間携わってきました。工事の設計から監督、計画、維持管理、経営面全てに携わって、下水道使用料の改定も二度ほど経験しました。J S 研修ですが、研修に行った職員は同じ釜の飯を食べたという経験からかみんな仲がいい。戸田でみんな勉強して自信をつけてさらに経験を積んで一人前になっていく形です。おかげさまで下水道から異動した職員は、他の部署から引く手あまたになっています。

石山

米沢市OBの石山です。私は民間の建設会社10年を経まして、平成2年に米沢市に入り土木課に配属されました。その後、平成10年に下水道課に異動し、管渠の整備工事に6年間携わりました。その年にJ S 研修・管きょⅡを受講しまして、ここにいる渡邊先生の指導を受け現在もお付き合いをさせていただいています。2度目の下水道は工事・維持管理を5年ほど担当しました。その後いろいろ異動しまして、令和4年の定年退職までの7年間は3度目の下水道課勤務となり、主に下水道整備計画の縮小や企業会計への移行などを行いました。通算しますと18年間、下水道事業に携わることができました。

船倉 廿日市市OBの船倉と申します。私は昭和50

年4月に五日市町という広島市の西隣にあった当時全国で一番人口が多かった町に就職しました。今はもう合併して広島市になっています。私はできたばかりの下水道課へ配属になりました。私は大学では土木だったのですが、下水道の「下」の字も知らない。配属先でも下水道を知らない人ばかりで、みんな素人でした。昭和51年にJ S 研修の実施設計初心者コースを受講したときにすごい衝撃を受け、感動しました。このときの研修が私の下水道の基礎になっていると自負しています。広島市に合併した後も3年間ほど下水道計画に配属されました。その後下水道の職員がちょうど辞めるので廿日市市に来ないかというお誘いがありました。廿日市市に行っても処理場研修に参加しましたが、最初



山田氏

に受けた研修ほどの感動はありませんでした。それほどぐらゐ最初に受けた宿泊研修の経験はすごく大事なものになっていきます。

渡邊 渡邊でございます。

縁あって昭和50年7月1日に事業団の前身・下水道事業センターへ出向することになり、事業団の研修業務に意義を感じて身分を切り替えて事業団プロパーとしてお世話に

なっています。今年で通算38年に亘り研修業務に携わっています。現在も講師の皆様や研修生と触れ合えていること、非常にありがたいことだと思っています。また地方公共団体に対して自分の役割を果たし貢献したいという思いから今でも研修業務に関わっていることを誇りと期待を持ちながら頑張っております。

JS研修講師の業務とそのやりがい

辻田 ありがとうございます。今日お集まりの皆さんが現役時代に事業団研修に研修生として参加されたことや山田先生については事業団へ出向されていた時代があり研修講師を担当されていたことをうかがいました。公務員としてさらに数多く

の実務経験を積まれて、地方公共団体OBの講師として現在教壇に立たれています。講師としての経歴や内容、またJS講師のやりがいなどについてお話をいただけますか。

山田 講師を引き受けた



片柳氏

きっかけは、私がJS研修部に出向したときの研修部長だった石川忠男さんが理事長だったときに、地方公共団体のOBを講師として活用していきたいので引き受けてくれないかという話があった。東京都を卒業した59歳から今79歳ですから20年間にわたって講師をとめています。

講義は実施設計コース管きよ基礎、管きよ設計I、管きよ設計IIの流量表作成を担当しています。研修生にいつも言うのは、設計図書の基本はこの流量表だよ。流量表にある面積、管の形状、断面、勾配、地盤高、管底高などの数値が設計

図書の平面図、縦断面図の基になります。下水道の一丁目一番地、イロハのイを教えてください。そこを知っていることが大事だよと口酸っぱくいつも講義の中で言っています。研修生が「なるほど、この数字がこうなっているのか」と理解してもらうこと、研修生へ質問していった理解度を確かめながら進めていき、みんながよく理解してくれることが講師としての喜びになっています。また、研修センター来ると若い人に会えてそのエネルギーをもらって帰るといのが講師としてのやりがいの一つになっています。

片柳 講師として最初ここへ来たのが、平成23年です。14年ほど経ちます。最初に渡邊先生から依頼された講義は管きよ



土屋氏

の施工法ということでしたが、どう進めていいかわからないので渡邊先生や先輩講師の方にもいろいろお聞きしました。

管きよ設計Ⅰ、Ⅱを担当する中で、近年、渡邊先生にお願いして、積算演習の講師を担当することとなり、管路設計についてトータル的に研修生とやり取りできることでやりがいを感じています。また、山田先生が話されたように若い研修生とコミュニケーションがとれることで、より良い体験

になっていると思っています。

講義の最後に研修生にお話することは、基本中の基本が大事です。よとわからないことがあったら次に行かないで、確実に理解をして次のステップに行つてねと常日頃言っています。それからもう一点、技術屋であれば会計検査を体験してしっかり乗り切つて、それが一人前の証だよと。若いときからそういうつもりでやつてくださいねと話しています。講師と

してJSへ来ていること自体が私にとって大きなやりがいになっています。

土屋

OBとしての講師歴は、平成28年3月に退職してからです。約8年なのですが、実は現役のときも講師をしていました。最初に講師をしたのは昭和60年代だったと思います。管きよⅠの積算演習を何回か、その後は推進工法だと思いのですが、デイスカッションの講師も務めさせていただきました。OBになつて、管きよ設計Ⅰの現場踏査、設計図作成実習、積算演習、それから管きよ設計Ⅱの管渠の施工、補助工法の選択の講師をやつてくださいと言われたときにどうやってやればいいのかと思つて、実は隣にいる片柳さんの講義を聴講させていただき参考らせてもらつて自分の講義に活かしました。研修生には、しっかり

り説明ができるような根拠を持ちなさいということとを常に講義の締めで言っています。

デイスカッションでは、退職してすぐはよかつたのですが、5年6年と経つてくると経験がない事例も出てきます。ネットで調べても他人の答えしか言えない。やっぱりもっと深く自分で理解してから講義に臨まないと研修生に失礼にあたります。ですから現役の下水道課長や職員に協力していただき、今のトレンドを教わり、それらをどのように実施しているのか、必要性、根拠などを自分で理解し頭の中を整理して、デイスカッションに臨むようにしています。かなり勉強しないと講義やデイスカッションに臨めないのが苦労はしていますが、やったという達成感がすごくあります。研修生が納得

して理解してくれることが本当にやりがいにつながっていると思います。

石山 私は退職する年に渡

邊先生から講師の手伝いをしてくれないかとお話をいただきました。令和4年より講師を務めさせていただきます。講義分野につきましては実施設設計コースの管きよ設計Ⅰ、管きよ設計Ⅱ、推進工法で、主に管渠工事の測量・製図・設計積算に関するものとデイスカッションなどです。実際に私が経験してきた内容を担当させていただきました。いますのでやりがいというか頑張っていきたいと思っています。現在、教授の方々や先輩講師の皆様よりご指導いただきながら務めさせていただいていますので、今後、経験を積んで少しずつやりがいを感じていければ

と考えています。自分が経験したことが少しでも他の人の役に立てるのであれば大変ありがたいことだと感じています。

船倉 平成の大合併の頃に

下水道もいろいろ手続きが必要なので、講師をしてもらえないかという話をいただきました。廿日市市は一市三町一村が合併したので、県内でも結構早く合併がスムーズにいったものですが、事業団から声がかかりました。当時私が下水道課長をしていましたので、参考になるのであればということで行きだしたのが初めだったと思います。それから以後渡邊先生からいろいろな講師をやってもらえないかというところで、私もJS研修ですごくお世話になった経緯がありますので、全国の下水道職員の一助

になるのであれば頑張りたいということでも引き受けてきました。ですから、退職前からこれまでもずっと講師はさせていただいています。担当はデイスカッション、それから実施設計、計画分野になります。JS研修は下水道全般がわかる最短の道だと考えていますので、ぜひ全国の下水道職員はここにきて学んでもらいたいと思っています。

私が感じるのは、全員がわかれば一番いいのですが、全くわからない人が来ている場合があります。研修生はある程度人選されるのだと思うのですが、設計書を見たこともないという方がいたりします。その辺のところは今後の課題ではないかと感じています。

渡邊 やはり私を含めて、



石山氏

若くありつつも歳は重ねていくわけですね。後継者の育成ということは考えながら常々動くようにしていて、既に山田先生にご指導いただいている内容の一部を船倉先生に引き継ぐということをやっております。

あと大事なのは教材です。私どもが設立当初から独自の教材を作成し改訂を行い、それを基に講義を重ねてきていることが売りですので、講義を行っている中での改定、

意見について常にお声掛けいただきながら、適宜見直しを行い、活きた教材にすることにもここにおられる皆様方にご協力頂いていることに感謝申し上げます。

それと私どもの職員、特に現職は常に二、三年で異動していきます。そういう職員に対する指導とか、ここにおられる方々にその役目を担って頂くべく、ご理解と更なるご支援をお願い致します。

今後求められる 講師像とは

辻田 ありがとうございます

した。研修生の立場に立って相談に乗ったり、講義内容を見直したりということが必要で、講師自らもその時代に合った講義内容かどうか確認をしながら勉強することが大事だということですね。そういった努力をしている皆さんに講師をしていただいていることで、研修の質が維持できていると改めて感じることができました。

時代とともに研修生のニーズも少しずつ変化していると思うのですが、皆様の講師経験を踏まえて、これから求められる講師像、後輩に対してこういう講師をめざせといったアドバイスを聞かせていただければと思います。

ます。

山田 下水道の技術は日進月歩です。ただテキストを今までどおり説明すればいいというのではなく、講師そのものも新技術を習得するなり、またあらゆる情報を収集して研修生に伝えるのも大きな仕事ではないかと思っています。

また、研修生はニュースを知る機会が少ないのではないかと思い、私は講義する前に、直近のニュースやその日に起きた過去の出来事などを調べて話をするので、ある程度興味を持たせてまず集中させることが大切だと思っています。ですから今後の講師の方も、日進月歩の新技術を学びながら、そのような話題



船倉氏

を講義の合い間に入れるのも研修生のためになるのではないのでしょうか。

片柳 地方公共団体から講師として派遣される際には首長の理解が非常に大切だと思っています。首長が下水道事業に十分後押ししてくれるとなれば自分自身も講師としての気構えができます。OBになってからも、全国の研修生が集まるところで講師をしていることについて後輩に会ったときに、偉ぶるわけではな

く、こういう形で協力していますと。自分が佐野市と事業団とのいい意味でのパイプ役になればと思っています。

また、研修生の満足度には常に関心を持っています。自治体へ戻って研修へ行って良かったという評価を拡げてもらえるよう私達は努力をして、満足度を上げていくことが大切かと思っています。私は古巣の下水道課へ2ヶ月に1回ぐらい行っで、読み終わった新聞をもらって、その新聞記事

の切り抜きを、その都度研修生へ渡して、とにかくいろんなことに興味を持ってくださいね、アンテナを常に高くしてねと伝えています。

土屋 私は講義の最初に落語で言うマクラを入れて、今で言えば線状降水帯とか、下水道が災害を受けたときの対応はどんなふうに行っているかなど、そういうことを散りばめながら講義に入り、講義にいろいろアドリブを加えてやるようにしています。

あとディスカッションも課題に関係ないようなことも話したりして。例えば普及率と水洗化率の話。普及率が上がるだけでは収入が増えない。水洗化率が上がることで実入りがあるわけです。いかに水洗化率を100%に近づけるかだと。ディスカッションの課



渡邊氏

題は自分ではやったことがない内容もあるわけですね。それをいかに事前に勉強し理解できるか、柔軟性がすごく大切です。受けた以上は何とかしたいという考え方ができる講師が望まれると思います。ただ、最初から全てはできないので、いくつかの失敗はJSの方でフォローしていただくと、新しい方々もやりやすくなると思います。

石山 私は講師が実際に経

験し実践してきたこと、例えば管きょ工事では調査・設計・工事の各段階において失敗したと、そのときどう対処したか、またはうまくいったこと、どうしてうまくいったかなど、テキストに書いていないような経験談を踏まえて伝えると研修生が実務に戻ったときに役に立つのではないかと思います。

あとディスカッションにおいて我々が経験したこと、済む内容と技術が

日進月歩で進んでいるのでOBではなかなか対応が難しいものもあります。OBと現役がセットで講義することで大変役に立つ講義にできるのではないでしょうか。

船倉 講師像というのも非常に難しい問題ですね。

例えば今回のパリオリンピック、セーヌ川で泳いで安全なのかというような意識が持てる職員を私は育てたいと思っています。そのためには下水道事業全体の流れを理解していることが大切です。

初めて講師をする方に対してテキストをもとに自分で講義資料を作ってくださいというのとはなかなか難しいと思うので、そういうところを我々OB講師の経験者が事前になにか作ればいいのかなという気がします。やはり講師を増やしていくと

いうことになる、そういうところが大事になると思います。

渡邊 やはり知識だけではダメで、研修生との交流という面では、生活面のケアを含めて小学校の先生みたいな意識を持たないといけないと思っています。

また、これからは講師育成の研修会等を行っていく必要があるのではないかと考えており、講師の資質を考え、一人一人の人間性や適材適所をいかに見定めるかが重要ではないかと認識しています。

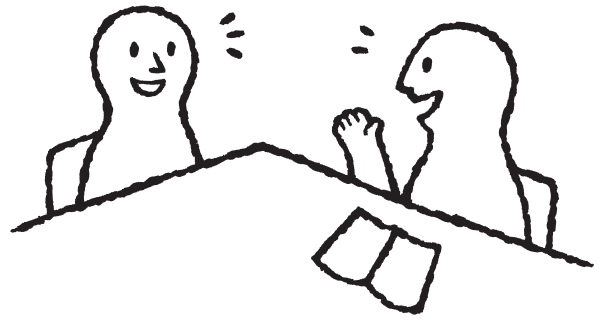
持続的な研修講師確保に向けて

辻田 ありがとうございます。私

も今まで教壇に立つ経験があまりなかったのですが、最初はすごく緊張しながらこの講義時間でこの内容を全て喋れるかなと不安を持ちながら教壇に立っていました。が、数をこなしていけば少しずつ余裕が出て、研修生にもわかりやすい説

明ができるようになってきました。

自分がコース担当として運営する際に、初めて講師をする人が来た場合はやはり心配なので、教室の後ろに座らせてもらい、無理な進め方がないか確認しながら、場合によっては休憩時間を入れさせたりして、研修生の



ね。まずは事業団研修が何をしているのかPRが大切で、研修を知ってもらうことで講師希望者が増えることへつながる気がします。

片柳 今回の研修講師登録

制度、待っているだけではなかなか登録者の手が挙がるとは思えません。まずはJS研修へ来てくれた研修生が満足して、地元へ帰ったら同僚や後輩にも行ってこいという流れが作れるか、そこが原点だと思っています。そういう若い人のやり取りができるようになれば、現役講師そしてOB講師としてJSに協力していきましようという人が出てくるのではないのでしょうか。私たちOB講師もそのつなぎ役になればと思います。

さて、地方公共団体を退職された方、これから退職予定の後輩の皆さんを研修講師へ導くためのご意見についてお聞かせください。

山田 昔は現役職員が講師

でたくさん来ていましたが、今は自治体職員が減っていますので、現役の講師派遣が難しくなっているのは事実ですよ

て出したいということ、渡邊先生と相談して実際に幹部と調整し講師として参加できるように体制が整いました。現役で講師を体験することは、本人にもよい経験になると思います。

やはり現役時代から講師をした方をOB講師のターゲットにして登録していただくのがいいのではないのでしょうか。退職して時間があれば、おそらく受けてくれる方がいると思います。

石山 事業団の研修もいろ

いろなコースがありますので、多くの自治体とのつながりを持つておく必要があるのではないかと思います。私も渡邊先生とお付き合ひさせていただき、今現在こうやって講師をしていますので、現役講師からOB講師へと継続してお願いできる各団体との環境作り、人

との繋がりが大変重要ではないかと思っています。

船倉 公務員を定年退職し

て、辞めてせいせいしたっていう方も結構いると思います。そういう方にいくら講師をお願いしても無理な話で、やはり人によって意欲とか性格とか、向き不向きがありますよね。現実的にはJS研修に来た研修生の中から、コース担当の先生がある程度唾をつけて、この子はいけそうかな、将来頼むねとか、そういうことからやられたらどうかなと思います。

私は先ほど渡邊先生が言われた講師向け研修が非常に有効だと思います。特に講師初心者には絶対必要だと思っています。後ろで講義を聞くだけでもいいので。一回見ておけば随分わかりますからそういうことにも取り組んでいただければ、講師

をやりやすいような環境が作れるのではないかと思います。

渡邊 私の経験からもやは

り人と人とのつながりが大切で、研修生から現役講師、そしてOB講師へと幅広い視野に立って活用していきたいと思っています。

いろんなご意見はあると思いますが、研修講師登録制度について皆様方のお力添えをいただきながら、一人でも多く登録いただけるようご協力いただければありがたいと思っています。

辻田 研修講師登録制度で

すが、皆さんのお話のとおり、履歴書のような資料だけで審査するのは難しいと思っています。実際のところは、現役時代に講師をしていたいた方に、OBになつてからもやっていただくような

持続性のある制度にした
いと考えています。我々
JSもこういう制度を
作って、OBの方々にも
下水道界の技術継承に
ずっと携わっていたく
場をまず打ち出したとい
う段階です。たぶん実際
の流れは渡邊先生のお話
のとおり人を見ながら、
声掛けをしていくという
ことがやはり重要で、そ
のためには研修センタ
ーのコース担当が日頃から
現役講師の方を見てこの
人はOBになってからも
講師をお願いしたいとい
う人をどのくらい見つけ
られるかにかかっている
のかもしれない。

また、事業団の研修自
体の魅力をしっかりPR
して、なるべく研修生を
広くたくさん派遣しても
らう努力を引き続き地道
にやるのがいづれ講師
となる候補生確保の方策
だとも思っています。

石山 私が管理職になった

ときに、それまで削られ
ていた事業団研修へ行く
予算について確保するよ
うにと言って増やしまし
た。十数万円の受講料で、
役所が何百万、何千万円
損しないですむような技
術者を育成できるのです
から。人材育成が何より
も大事だと常に職場で話
をしていました。

山田 我々も講師を探して

来いと言われれば、お手
伝いさせてもらいます
よ。このメンバーのみな
人で。後輩たちに、こう
いう登録制度があるので
是非申し込むようにと。
推薦しても面接があるか
らしつかり勉強しなきゃ
ダメだよと言っておきま
す。

辻田 今回の座談会では、

これまで地方公共団体OB
として長きにわたって

人材育成に注力いただい
ている講師の皆様からい
ろいろなお話を聞かせて
いただきました。皆さん
の生の声を情報発信する
ことで、研修講師という
仕事の魅力が全国に伝え
られるのではないかと
思っています。いただい
たご意見については今後
の我々の研修センター業
務や研修講師登録制度に
大いに役立てさせていた
だきます。それでは今後
とも引き続きJSの研修
事業についてご理解とご
協力をよろしく願いい
たします。本日はありが
とうございました。



【左から】 後列：土屋・船倉・石山・岸本 前列：片柳・渡邊・豆谷・辻田・山田



歴史探訪

第四弾

古代から近代まで
多彩な歴史と文化財が伝わるまち—— 行田

埼玉県行田市郷土博物館

館長 鈴木 紀三雄



昭和63年に再建された忍城御三階櫓の最上階に上ると、市内を一望することができます。晴れた日には遠くに筑波山から男体山、日光白根山、赤城山、榛名山、秩父連山といった関東地方の山々、さらには富士山まで望むことができます。平成24年に公開された映画「のぼうの城」のおかげで、忍城の知名度は一気にあがり、全国からお客様が訪れるようになりました。その方々がこの風景を見て、皆さん「なんて真つ平なところなんだろう」という感想を漏らされます。まさにそのとおりで、行田市は自然の地形では高低差が2mほどの、坂がほとんどない町です。坂があるところといえば、古墳の墳丘と利根川の堤防くらいで、建物を除くと一番高い場所が、埼玉古墳群の丸墓山の頂上です。

また、利根川と荒川の二大河川に挟まれており、水が大変豊富な場所です。河川の氾濫により肥沃な大地が形成さ

れ、古代から開発が進みました。さらに隣が熊谷市ということからも分かるように、日照条件が非常に良い場所です。肥沃な土地と恵まれた水、温暖な気候のもとで、わたしたちの先人たちは古くから生活を営んできました。そこには大規模な開発や戦乱の時代、城下町の形成や地場産業の発展など、時代ごとにさまざまな特徴があります。そこで、今回の歴史探訪では、行田市の古代から近代まで歴史を紹介し、その魅力を紹介してみたいと思います。

まず、行田の古代について最初に思い浮かぶのは古墳時代です。市の面積は67キロ平方メートルほどですが、そこに分かっているだけで197基の古墳が確認されています。多くは昔からの開発で壊されて地面の中に埋もれています。発掘調査をすると古墳の周溝がみつかり、そこからは様々な形をした埴輪が出土しています。

古墳は市域全体にまんべんなく散ら



古墳



ばっているわけではなく、一定の場所にまとまって築造されます。この古墳の集団を古墳群といいます。市内には12の古墳群がありますが、なかでも国特別史跡に指定された埼玉古墳群は、9基の大型古墳が現存する日本最大規模の古墳群です。そのなかの一つ、稲荷山古墳から出土した鉄剣を昭和53年に保存処理したさいに見つかった金象嵌の115文字は、日本の古代史における世紀の大発見といわれています。ほとんど文字資料が残っていない時代において、「獲加多支鹵大王」や「乎獲居臣」などの人名、「斯鬼宮」「杖刀人」といった古代の都や官職まで記されたこの鉄剣は、私たちが古代へのロマンへと誘ってくれます。昭和58年に鉄剣を含めた稲荷山古墳出土品は、国宝に指定され、埼玉県立さきたま史跡の博物館で保存されています。

また、利根川右岸にある酒巻古墳群の一つ酒巻14号墳からは、大陸からの渡来文化を色濃く映した埴輪たちが出土しています。なかでも背中に旗を立てた馬型埴輪は我が国唯一の出土例として、他の埴輪たちとともに平成19年

に国重要文化財に指定され、行田市郷土博物館で保存されています。

万葉集にも行田にまつわる歌が4首載せられています。元禄10年(1697)、埼玉神社の境内に地元の人たちによって建てられた灯籠には、そのうちの2首が刻まれています。「埼玉の津に居る船の風をいたみ 網は絶ゆとも言な絶えそね」の歌にでてくる「埼玉の津」とは、川の港のことであり古代からこの地が河川交通の要所であったことを示しています。古墳の石室に用いられた石は、荒川上流や遠くは房総半島からも船を使って運ばれたと思われる、行田は古代の流通の拠点ともなっていたのです。関東の石舞台とよばれる八幡山古墳では、緑泥片岩を用いた石室が公開され、巨大な石材を用いた古代の土木技術を実感することができます。

さて、時代は進んで戦国時代になると、戦乱の世の中を背景にして関東地方でも数多くの城が作られていきます。現在の熊谷市上之あたりを拠点にしていた成田氏は、15世紀後半に「忍」の地に進出して城を築きました。それ

が忍城です。城が作られた場所は沼地で、その中の小島を利用して、成田氏は城の縄張（設計）を行ったと考えられます。やがて忍城は、自然の地形を利用した守りやすく攻めにくい要害堅固な城郭として、戦国大名たちが鎬を削る乱世のなかで、その名が知られるようになります。成田氏は忍城を拠点として、北条氏や上杉謙信と渡り合い、乱世を生き抜いていったのでした。

天正18年（1590）、豊臣秀吉が天下統一の総仕上げとして、北条氏を攻めるため関東に出兵します。城主成田氏は小田原城に参陣したため、忍城は一族や家臣たちが籠城して、豊臣軍を迎え撃ちます。秀吉は忍城攻めの総大将として石田三成を派遣しました。三成は秀吉の命令をうけて、城の廻りに長大な堤防を築き、水攻めを仕掛けます。しかし、なかなか思い通りにはいかず、やがて北条氏が降伏したため、忍城も開城しました。

忍城は最後まで落ちなかった城として後世にまで語り継がれ、小説や映画の題材となりました。三成は丸墓山に陣を張ったと伝えられ、そこからは

忍城を望むことができます。今から430年ほど前、ここから忍城を眺めた三成の気持ちに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

江戸時代になると、忍城は忍藩の拠点となり、譜代大名が城主を務めました。とくに松平信綱から阿部正允まで、城主が6人続けて江戸幕府の老中となったことにより、政治的にも重要な城となりました。

藩主により城下町の拡充も行われました。忍藩主阿部忠秋はこれまでであった上町・下町・新町にくわえて、新たに八幡町を新設しました。この町は、忍城の修築に携わった職人たちが住んだことから大工町ともよばれ、その中心にある八幡神社は、いまでも地域の人々の信仰を集めています。

文政6年（1823）、幕府の命令により、忍藩主阿部正権が白河へ、白河藩主松平定永が桑名へ、桑名藩主松平忠堯が忍へと国替になる三方領知替が行われ、奥平松平家が新たに忍藩主となりました。この国替により、行田市と桑名市、白河市は平成10年に友好都市を締結しました。三方領知替が縁

で友好都市となっているのは、全国的にもこの三市だけで、文化やスポーツ、物産など様々な分野で交流が続けられています。

明治維新の際に、忍城は廃城となり建物は競売にかけられ解体されました。残念ながら、元あった場所に残された建物は無いのですが、城下町は一部を除いて大規模な区画整理が行われず、江戸時代の道がそのまま残されています。都市計画図に江戸時代の忍城の城絵図を重ねた地図を片手に、大手門から武家屋敷跡を抜けて堀跡を渡り、三の丸・二の丸・本丸と足を運んでみれば、御殿様の気分を実感できるかもしれません。

本丸や諏訪曲輪址には行田市郷土博物館や忍城御三階櫓が建てられ、館内では行田の歴史や文化財を展示しています。また、近年では三階櫓のライトアップが行われ、暗闇に浮かび上がる城郭の光景がインスタ映えすると評判となっています。

昭和9年に西条八十が作詞した「行田音頭」には、「足袋の行田を思い出す」という歌詞があります。江戸時代から

特産品として知られた行田の足袋産業は、近代になり製造にミシンが導入されると飛躍的な成長を遂げます。行田は日本一の足袋の町となり、最盛期の昭和13年には生産量が8400万足を超えました。大企業による生産ではなく、町工場が林立してあちこちからミシンを踏む音が響き渡り、製造した足袋を保管する倉庫が多数建てられました。現在この倉庫は「足袋蔵」という名称で呼ばれ、なかにはお蕎麦屋さんや展示ギャラリーとして活用されるなど、地域活性化に一役買っています。

また、平成29年には足袋産業の歴史と文化財によるストーリーが「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として、埼玉県内唯一の日本遺産に認定されました。令和2年には行田市郷土博物館が所蔵する足袋関係の資料が国重要有形民俗文化財に指定されています。

東京から一時間ほどの場所ですが、意外なほど古代から近代まで、多彩な歴史と文化財が存在する行田市を、多くの方に是非とも訪れていただければ幸いです。



時代まつり

[雑 感]

大谷翔平選手を思う
(続編)

岩手県南広域振興局土木部
花巻土木センター

所 長 長沼 輝伸



この度は、「研修みずのわ(第58号)」の発刊にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただき感謝申し上げます。

しかし、全国の「研修みずのわ」を愛読されている皆様に、満足のいく記事を書くことはかなりのプレッシャーです。今回の渡邊先生からのリクエストは、「大谷選手を思う第2弾!」でした。岩手の誇りである、世界の大谷選手を称えるのであればとお引き受けしました。

私は現在、岩手県花巻市に住んでいます。大谷選手の母校である花巻東高校が自宅のそばにありますので、菊池雄星選手や大谷選手が高校生の時には、挨拶を交わすこともありました。この辺の繋がりは、昨年度の「研修みずのわ(第57号)」を是非ともお読みください。

さて、今年の大谷翔平選手の活躍は次のとおり。

「真美子さんと結婚!」(これが一番の衝撃!)

「MLB開幕戦で勝利!そして、通訳解雇...」

「シーズン開始からDHでホームラン、盗塁量産!」

「オールスターにDHで出場!初本塁打!」

「MLB史上初の50本塁打・50盗塁達成!」

と、書ききれない活躍、これらは皆様の記憶に残っていることと思います。

そして、この執筆中には、「ニューヨークヤンキースを破りワールドシリーズ制覇!」を成し遂げました。

大谷選手は、2023年12月に、ロサンゼルスエンゼルスから、北米スポーツ史上最高額となる10年総額7億ドル(約1千億円)の契約金でロサンゼルスドジャースに移籍。「もっともっと楽しい、ヒリヒリするような9月を過ごしたい」大谷選手が移籍先に常勝軍団のドジャースを選びました。

そして、今年は右肘怪我のため二刀流を封印し打者に専念、見事記憶と記録に残る活躍により、最後はワールドシリーズ制覇で締めくくりました。

しかし、大谷選手は、ワールドシリ

[雑 感]

大谷翔平選手を思う (続編)

ズ第2戦で盗塁した際に左肩を負傷してしまいました。結果的には左肩を手術するほどの重傷でした。それにも関わらず試合に出場し続け、常にチームを鼓舞し、チーム員からも信頼され、遂に優勝を成し遂げました。この姿を見て、心を震わせ、尊敬せずにはいられませんでした。

ここからは、あらためて大谷選手の今年の偉業などについて個人の勝手な思い入れをお話したいと思います。

我が岩手、そして日本の誇りである大谷選手は、ロサンゼルスドジャースにチームを替え、妻の真美子さん、愛犬のデコピンに支えられ、今シーズンも数々の偉業を達成しました。その一つが、MLB史上初の50本塁打と50盗塁の達成です。ホームランを打つパワーと盗塁を成功させるスピードの両方をあわせ持つ選手は少なく、大谷選手はパワーもスピードもMLBでトップクラスの力を持っていることを示しました。1903年に創立されたMLBの歴史に、日本人が、しかも岩手県人が新たな記録を残したのです。この出来事に、アメリカのテレビ局、新聞

社はともかく、イギリスや中東のメディアまでが、大谷選手の活躍や日本や岩手の盛り上がりを伝えました。

このように数々の記録を残す大谷選手は、日本のみならず、世界中の野球ファンに驚きと興奮、感動を与えました。

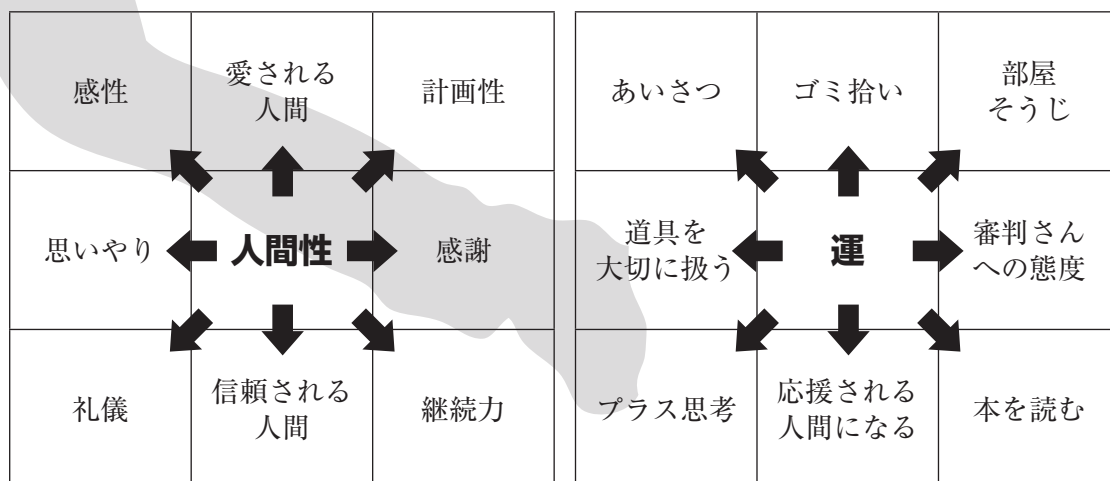
それにしても、何故大谷選手の活躍は世界中の人々に感動を与えるのでしょうか。

大谷選手が花巻東高校時代に作った「目標達成シート」は御存知の方も多いいと思います。目標を達成するために、何が必要かを視覚化しています。強い目標(夢)を中心に置き、周囲9×9の合計81マスに細分化した目標を書き込んでいます。大谷選手が中心に書いた夢は「8球団からのドラフト1位指名」です。そして、中央の目標を達成するために必要な要素を8つ記入しています。

①体づくり ②人間性 ③メンタル
④コントロール ⑤キレ ⑥スピード
⑦変化球 ⑧運

私のような非アスリートは、こういった目標設定ならば、技術的な要素を掲げるのではないのでしょうか。

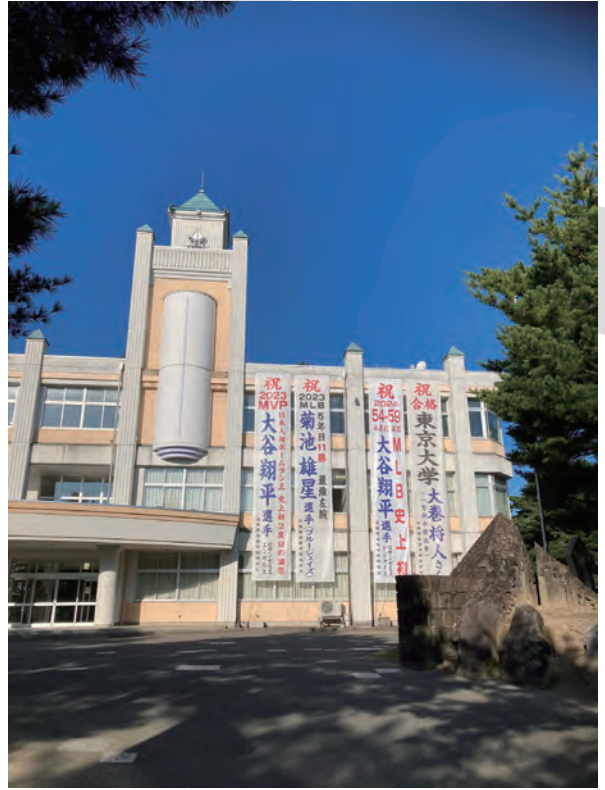
しかし、大谷選手は「人間性」「運」と2つの要素をあげています。



「人間性」、「運」に必要なことを次のようにあげています。

皆さん、この要素を見て、大谷選手のプレー中における仕事を思い起こしてください。

例えば、「試合中にも関わらずグラウンドに落ちているゴミをサッと拾ってポケットに」、「バッターボックスに入る時には、審判やキャッチャーはもちろん、敵のベンチに向かって軽く会釈」、「ランナーに出ると敵の野手と親しげに会話したり、時には相手からい



花巻東高校の校門から
「MLB史上初の垂れ幕」

たずらされる」など、こんな光景が頭に浮かびます。

また、ベンチではチームメイトと笑顔で声をかけあい、ふざけてみてはベンチを盛り上げ明るくしています。これは、エンゼルス時代でも見かけられた光景です。

ドジャースの外国人のファンが「大谷選手のすごいところ」についてインタビューされ、その回答がまたうれしいものでした。「大谷選手のスポーツマンシップと謙虚さ、多くの人々に尊敬されているところ。いつも真面目に

真剣に、チームのために一生懸命プレイするところ。」大谷選手が愛されているのは、こういうことなのでしょう。大谷選手は、目標達成に向けた要素である「人間性」、「運」を大事にしてきたのではないかと思います。

特に「人間性」は、大谷選手の生まれ育った岩手の気候・風土、取り巻きの人、そして家族によって作られてきたものと考えます。ただ、野球技術だけを追究するだけの人物では、今の大谷選手はなかったでしょう。

「模範となる人物」を目指してきた大谷選手は言っています。「トップに立つ人間、成果を上げる人間は、模範となる人物、真面目にやってきた人間であるべきで、自分もそうありたい。」と。

大谷選手は今でもグラウンドを歩いているときにしゃがんでゴミを拾うことがあります。高校時代は、佐々木監督から言われた「球場の一番高いマウンドに立つ人間は、みんなが一番嫌がる仕事をしなさい」という教えを守り、寮のトイレ掃除も文句一つ言わずにやっていたそうです。

謙虚でありながらも絶え間ない努力

[雑 感]

大谷翔平選手を思う (続編)



菊池雄星（花巻東高）がプロデュースし、
11月に完成する花巻市の複合野球施設
「King of the Hill (キング・オブ・ザ・ヒル=KOH)」



「The Road to Major Leaguer」
大谷選手や菊池雄星選手が高校時代に通った自転車道路。
花巻土木センター管理しています。

を惜しまず、度重なる怪我にも負けず、常にチームのために全力を尽くす姿勢。これが世界中のファンから愛される理由でもあり、大谷選手のスポーツマンシップは、国境を越えて多くの人々に感動を与えています。

どれだけ成功しても、自分のチーム

メイトやスタッフへの感謝を忘れないこと。常に全力でプレイし、勝っても負けても笑顔を絶やさない姿勢が、ファンを惹きつけています。

そのうえで、技術と努力が合わさり、まるでスーパースターのような存在感も兼ね備えている大谷選手を私は応

援せずにはいられないのです。

話は変わりますが、前号で岩手出身で私の息子と同一年のドラフト1位のプロ野球選手が3人いることを紹介しました。いずれも息子が対戦したり同じチームメイトだった彼らです。

東京読売ジャイアンツ

西館勇陽（2023年ドラ1）

堀田賢慎（2019年ドラ1）

千葉ロッテマリーンズ

佐々木朗希（2019年ドラ1）

彼らの今シーズンは満足の行く内容ではなかったと思いますが、大谷選手と同様に岩手の誇りとして大いに活躍が期待されるところです。

私はいつも県外の知り合いの方々から「何故、岩手からすごい選手が出てくるの?」と聞かれます。

何故?いつも答えるのは、「親が一生懸命（バカになって）に応援するからかな。」と答えます。

私の息子が高校まで野球を続けていましたが、とにかく子供以上に熱く燃えて応援やサポートをしていました。土日や祝日の練習試合や大会はとにかく「追っかけ」していました。このよ

うな光景は、岩手県内では普通に（少なくとも私の周りでは）見られました。子供は親の前でいいとこ見せようと頑張ります。上手くいくことだけではなく、失敗してかっこ悪いことも多いと思いますが、親は子供の全力プレイやひたむきなところを見て、子供の成長を見守り、時に涙します。そのような環境によって、子供たちは必然とがんばろうとするのではないかと思います。

答えのもう一つは、「岩手は広いからグラウンドがたくさんあるからかな。それと、人口に対して野球チームが多いからかな。」

グラウンドの数はさすがに調べきれませんが、花巻市内の野球のスポ少チームにはそれぞれ使用できるグラウンドがあります。都会ではグラウンド確保が難しいと聞きますが、岩手ではそのような心配は少ないと思います。

また、次の表のように岩手県の人口1,181千人に対して野球チームは583チームと、東北地方の中でも多く、学童から大人まで、総じて野球熱が高いと推察できます。

都道府県別 登録チーム数(令和4年度)

	一般	少年	学童	計	人口 (千人)
北海道	873	339	411	1,623	5,140
青森	139	108	124	371	1,204
岩手	313	119	151	583	1,181
宮城	204	161	215	580	2,280
秋田	188	23	130	341	930
山形	120	94	114	328	1,041
福島	338	178	55	571	1,790

※公益社団法人全日本軟式野球連盟HPより

このような環境ですので、今後も岩手からビッグスターが輩出されてくるのではと期待しています。

今年、花巻東高校からアメリカのスタンフォード大学に入学した佐々木麟太郎君も、野球に取り組むほかに、アメリカの地で自分を磨きたいと強い意志をもって未知の世界へ飛び込みました。その姿勢は、先輩である菊池雄星

選手、大谷選手と同じで、「人間性」が大切であることを私たちは感じています。

さらにさらに！ビッグニュースが飛び込んできました！佐々木朗希選手が、来シーズンMLBに挑戦することが発表されました！「長年の夢であったMLBの舞台で世界一の選手になる。」と決意を示しました。本号が発刊される頃には、所属するチームも決定していると思いますが、また岩手からメジャーリーガーが現れることに興奮せずにはられません。

最後になりますが、東日本大震災以降、頻発する豪雨・地震災害、新型コロナウイルス感染症、ウクライナやパレスチナでの戦争など世の中の情勢は混沌としていますし、日常生活は円安、物価高と不安な毎日が続く中、大谷選手の活躍は我々日本人だけではなく、世界中の人々の活力の源になりました。

このような時代だからこそ、「人間性」を今一度磨きなおしていかなければならないと執筆しながら思いを強くしたところです。

ありがとう大谷選手！



能登半島地震調査隊長 2度の体験報告と現状

能登地震支援を経験して

熊本市上下水道局
計画整備部 下水道整備課
課長補佐 西村 隆博



はじめに

「研修みずのわ」第58号
発刊、誠におめでとうござ
います。また、寄稿の機会
を与えていただき感謝申し

上げます。

今年8月に渡邊先生から
お電話をいただき、能登半
島地震支援について寄稿依
頼がありました。私は、心
の中で「2年連続の寄稿で
大丈夫かな？」とも思いま
したが、「はいっ」と返事
をしてしまいましたので、
恐縮ながら私の経験したこ
とをご紹介します。

支援都市として

まずはこのたび石川県能
登地方を震源とする大規模
な地震により、被災されま
した皆様に心からお見舞い
申し上げます。また、被災
者の救済と被災地の復興支
援のためにご尽力されてい
る方々に深く敬意を表しま
す。

今回の地震は、令和6年
1月1日午後4時10分頃、
石川県能登地方を震源とす
るマグニチュード7.6の
地震を受け、大都市では大
都市支援ルールではなく、
全国ルールに基づき石川県
から大都市総括本部である
東京都を経由した要請とな
りました。

熊本市では、1月7日付
けで東京都から金沢市での
調査班2班及び1次調査

リーダー都市として支援要
請を受けました。本市では、
熊本地震を踏まえ班員8名
と、とりまとめに2名追加
し合計10名の支援体制を決
定し、私自身は隊長を務め
ることになりました。

熊本市支援隊10名は、1
月10日午前11時に上下水道
局を車両4台で出発し、門
司港17時30分発のカーフェ
リーを利用し翌朝5時30
分に大阪南港に到着しまし
た。

実は、フェリーの船内では
金沢市内での1次調査支
援を担う「北九州市、福岡
市」の職員の皆様方と、合
流することができました。

合流した福岡市・北九州
市の職員の方には、昨年B
CP訓練で顔を合わせた方
も多数おられ、船内で食事
の際に意気投合し、一体感
があるいい雰囲気コミュ
ニケーションを図ることが
できました。

1月11日11時30分に石川
県庁の県支援本部に到着し

挨拶を済ませ、午後から現
地に入り石川県本部より1
次調査の進め方などの説明
を受けました。

金沢市での1次調査は、
1月12日から16日までの5
日間、6都市（熊本市、札
幌市、仙台市、広島市、北
九州市、福岡市）の9班体
制で行いました。

熊本市はリーダー都市で
あったことから1次調査業
務の他、各都市の日々の調
査報告や調査運営全般及び
被災都市と県本部との調整
などにも従事させていただきました。

熊本市の隊員構成は、熊



写真1：1次調査打合せ状況

本地震を経験した職員（4名）と、地震の未経験者である若手職員（6名）の計10名で支援活動にあたり、とくに若手職員にとつて貴重な経験をさせていただきました。

この支援を経験した若手職員1名は、令和6年4月1日から七尾市に中長期派遣職員として、下水道の復旧事業に従事させていただいております。

今回、金沢市の一次調査は、総管路延長2,496kmのうち、金沢市企業局が住民から受けた被災連絡箇所を基に選定した236.9kmを6都市にて実施しました。そのうち31.9kmが2次調査対象延長となり、総管路延長に対する2次調査対象路線の割合は、1.3%でありました。

調査初日、6都市で金沢市企業局へ挨拶に伺いましたが、被災自治体である金沢企業局では応急復旧の対応に追われ、大都市支援に協力できる体制を確立することが難しいことを改めて認識しました。

しかし、6都市の隊員の方は、会議で一緒に緒の方や熊本地震での支援経験者の方もおられ、常に前向きな意見ばかりで非常にいい雰囲気が進めることが出来ると感じていました。

一次調査の2日目のことです。本市の調査隊員が現場からラインで送ってきてくれました。その内容は、公用車のワイパーに「遠方より援助に来て頂き有り難うございます。御気を付け



写真2：1次調査状況

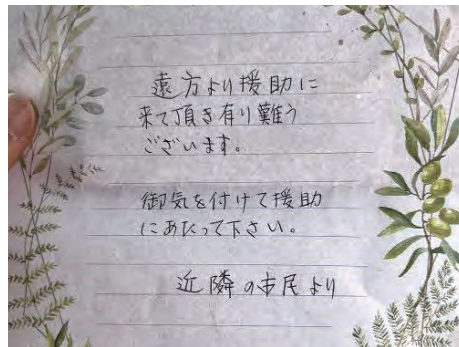


写真3：金沢市民の方からのお手紙

て援助にあたってください。近隣の市民より」と、丁寧な字体でお手紙が沿えてありました。この日はかなり冷え込んだ積雪の日でありました。このお手紙で調査隊員一同、心が温まり調査意欲が一気に上がったことを覚えていきます。

次にお昼の定食屋さんでは、私たちは作業着に熊本市入りの「腕章・ビブス」を着用し入店し、注文の際、いつも店員さんが笑顔で「熊本からですか？」って言うていただきました。私たちは、その笑顔には、「ありがとう」っていうこ

とが含まれていると解釈していました。このやりとりでも私たちは、とても癒されていました。

また、私は、平成17年に下水道事業団研修を受講させていただき、実に19年ぶりに同部屋だった金沢市職員の友人と再会することができました。

我々が、現地調査で緊急措置として本市三角コーンの仮設置を金沢市企業局にお伝えしたところ、その友人がすぐに我々のところに三角コーンを返しに来てくれました。そのときに、研修の集合写真とたくさんさんの焼酎・お酒を持参していただきました。

私は最初、すぐに思いだせなかったのですが、集合写真や下水道事業団研修後に熊本市に研修で来たと言うお話を聞き思いました。それが出来ました。

「なぜ、私が来てることをわかったんですか？」とお聞きしたところ、「名簿

を見て確認しました。」とのことでした。友人にお会いしたことで、私自身も調査意欲が一気に上がりました。

ふり返れば、今回の一次調査では、6都市の隊長をはじめ、すべての隊員が厳しい天候の中、非常に前向きな姿勢で、皆様に助けていただき調査を終えることが出来たことに、リーダー都市として感謝を申し上げます。

また、特に福岡市・北九州市・大阪市・仙台区の職員の皆様方には、昨年8月に熊本市内で開催した「下水道BCP訓練・講演」に参加いただき、平時からのつながりの重要性をここで再認識をしました。

今後も、他都市の皆様方とさまざまなところでつながりを持ち熊本地震でご支援いただいたことを少しでも恩返ししていけたらと思います。



研修講師と能登沖地震 調査隊長体験記

能登半島地震の復旧支援と 講師研修

福岡市道路下水道局
建設部 中部下水道課

第1係長 大塚 重道



この度は「研修みずのわ」第58号の発刊、誠におめでとうございます。寄稿の機会をいただき大変光栄に思います。また、この度「豪雨・暴風・地震・津波の災害対

策」研修の講師として初めて登壇させていただいたことは、私にとって非常に貴重な経験であり、下水道職員とのネットワーク構築や知見を広げる大変有意義なものになったと実感しております。渡邊先生を始め、研修センターの皆様、そして一緒にさせていただいた講師の方々、本当にお世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

私は平成9年に福岡市役所に入庁しまして、今年で27年目、下水道事業は16年目になりますが、研修センター並びに渡邊先生との出会いは、今から12年前の平成24年に先生が担当されていた「管きよの液状化コース」を受講させていただいたのがきっかけで、その1年前の東日本大震災での下水道復旧支援の経験を踏まえて申し込んだことを覚えております。その後も熊本地震、そして今年の元日に発生した能登半島地震においても復旧支援を行いました。

能登半島地震については、金沢市の二次調査第1班で初めて隊長として支援を行い、調査の実務に加え、市事務局との連絡調整や他都市との情報交換、その他、調査を円滑に進めることを念頭に取り組みました。二次調査は、日本下水道管路管理業協会会員の調査会社と支援都市が1班となり調査を進めて行きますので、長期間に渡り一緒に作業を進めて行くうえでは、信頼感が非常に重要であることから、積極的にコミュニケーションを図るとともに、課題がある箇所については、金沢市の担当者とは復旧や仮設ポンプ設置の調整などを迅速に行い作業に遅れが生じないように心掛けました。また、悪天候のなか我々市職員も一緒にやって行った土木作業などを通じて苦労を共有できたことで、一体感と関係性を強めることができ、その後、交代していく市職員も円滑に作業を進めることが出来たのではないかと感じております。

そのような復旧支援の経験や福岡市の浸水対策の取り組みなど、今回、初めて講師としてお話しさせていただいたのですが、資料作成から始まり、膨大な資料の説明時間配分、質疑応答やパネルディスカッションの準備など、終始時間に追われっぱなしで、休まる時間がないほど非常に忙しくも充実した時間を過ごさせていただきました。やはりこれは、以前、先輩が言われていたとおり、「研修の講師」ではなく「講師の研修」であることを実感したところでした。

受講生の皆様におかれましては、不慣れな説明で聞きづらい部分や解りづらい部分が多々あったと思います。質問等があればいつでも対応させていただきますので、ご連絡いただけると幸いです。

この研修を通して、一緒に緒らせていただいた講師の皆様やこれまで講師を務められてきた先輩方も研修センターの受講生から始まり、実務経験を経て、講

師を務められ、その技術や知識を次世代へ繋いでおられることを思うと、研修センターの役割は、人を育てて人や技術を繋いでいく非常に重要な役割を担っているのだと思います。その研修を支えられている方々のお仕事を始めて講師側で体験させていただきましたが、永遠の57歳である渡邊先生は、研修内容の立案構成に始まり、講師の手配から案内、サポート、受講生に関するお世話に至るまで、すべてを取り仕切られており、また自らも飛び回っておられる姿を目の当たりにして本当に頭が下がる思いでした。私も更なる技術の研鑽に努めるとともに、微力ながらこれからの下水道事業の発展に少しでも貢献できるよう日々精進していく必要があると決意を新たにしました次第です。

最後になりますが、下水道事業団研修センターのご清栄とご発展、並びに全国

の下水道事業に携わる皆様方のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。





宮山福会



事業団研修に参加から 宮山福会へ（一部）

福島県須賀川市上下水道部
下水道施設課建設係

伊藤 太治



この度は「研修みずのわ」第58号の発刊、誠におめでとうございます。また、渡邊特任教授より寄稿のお声がけをいただき、感謝申し上げます。

私が下水道事業団の研修

に参加したのは、令和4年に渡邊先生が担当された「実施設計コース管きよ設計Ⅱ」になります。

下水道施設課に異動して一年が過ぎ、下水道について少し理解できるようになってきていたため、当時の上司に「管きよⅠコース」ではなく「管きよⅡコース」に行きなさいと言われる参加しました。学生時代も土木を専攻していなかったため、あまり自信がない中、

ドキドキしながら、研修センターに向かったことを覚えていています。

須賀川市の下水道施設課では、ほぼ毎年「管きよコース」に参加しており、渡邊先生にお世話になった先輩方も多く在籍しております。年に一度、「宮山福会（みややまふくかい）」という渡邊先生と宮城県・山形県・福島県の元研修生での交流会をするなど、とても親密な関係となっております。その為、上司からは失礼の無いようにとくぎを刺され、プレッシャーを感じながら、渡邊先生にお会いしました。お話させていただくと、とても気さくで、話やすかったため、内心ほっとしておりました。

私が参加した令和4年度は、やっと新型コロナウイルス感染症が収まりつつある中の研修のため、研修を担当していた渡邊先生や職員の方々は、気を遣いながらの研修だったと思います。

す。外食等が禁止ではありませんでした。皆自治体職員の意識もあり、最低限の買い出しのみ外出し、皆で新宿舎の談話室で集まって過ごしていました。数多くの個性豊かな研修生が、年齢関係なく、仲良く交流できたのは、皆がお互いを尊重しながら、楽しく実りのある研修にしたいからだと思います。

研修では、少しでも新しい知識やチームでの課題の検討など、協力しながら学ぶことができ、今後の下水道事業に必要なことを学ぶことができました。この場を借りて、日本下水道事業団研修センターの皆様、一緒に受講した研修生の皆様、また幹事として皆をまとめてくださった、幹事の浪岡さんに感謝申し上げます。

さて、先ほど少し触れました、「宮山福会」についてお話ししたいと思います。



令和4年度 実施設計コース管きょ設計II専攻 開講式

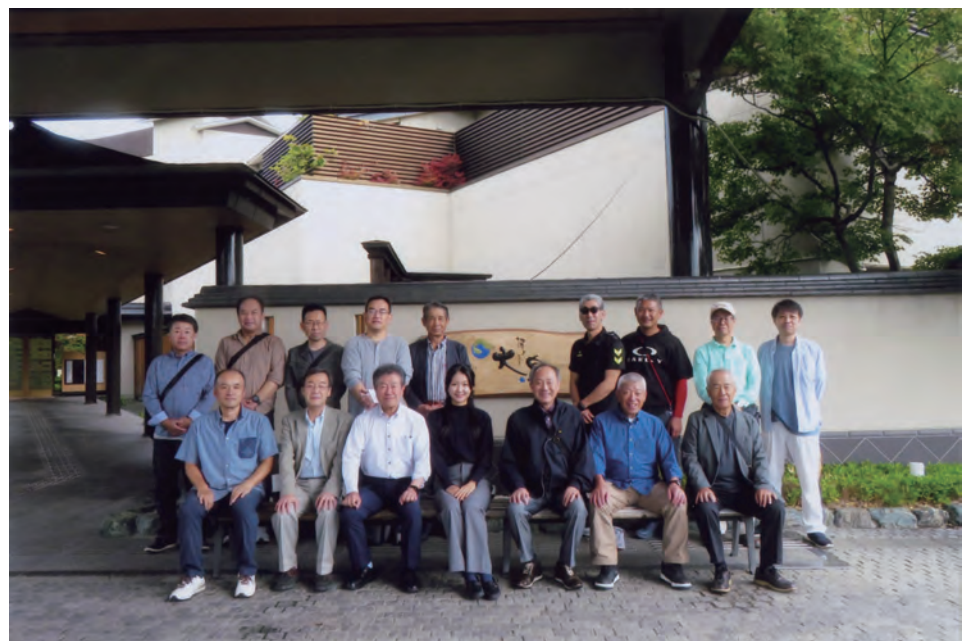


令和6年度 宮山福会 (於：福島県奥飯坂 摺上亭 大鳥) 2024.10.18

させていただきつつ、渡邊先生をはじめ、下水道事業団の講師の方々、宮山福会の各自自治体の先輩方と交流をさせていただきました。

講師や先輩方との交流では、今後の下水道事業についてのお話や、自治体全体についてなどの真面目な話から、日々のちょっとした変化を楽しむこと、生活を面白おかしく過ごすことなど、とてもユニークなお話をさせていただき、楽しい交流会となりました。

最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの今後益々のご発展と宮山福会の皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。



令和6年度 宮山福会 (於：福島県奥飯坂 摺上亭 大鳥) 2024.10.19

宮山福会は、平成4年に「みずのわ会」として宮城県・山形県で発足し、平成8年「宮山会」に改称し、平成25年まで続けました。平成26年からは福島県も加わり、「宮山福会」と改称し、現在まで続いております。

め、講師の先生や各県の元研修生が一堂に会して、交流会を行っております。新型コロナウイルスの影響で、未開催の年もありましたが、今年で29回目の開催となり、大変歴史のある会となっています。

私は、令和5年の28回開催で初参加の予定ではあったのですが、市人事課主催のバレーボール交流会でアキレス腱を断裂してしまい、見送りとなってしまいました。その為、日程が合った今回の福島県開催は、一年越しの参加となりました。

福島県開催とのことで、福島の飯坂温泉「摺上亭大鳳」にて行いました。先輩方が準備を進めていたため、微力ながらお手伝いを

宮山福（みやふく）会の 魅力とは（二部）

（元）栃木県佐野市市民生活部
部長 片柳 栄



今年も、楽しみにしている2泊3日の旅行に参加して来ました。

この会は、宮城県、山形県、福島県が順番に幹事を務めていただいています。10月18日からの「第29回宮山福会」の旅です。私の初参加は、第16回宮城県「わたり温泉」でしたが、年々新規参加者も増える中、今までの仲間の皆さんとの旧交を更に深めています。ま

た、この会は、平成4年「宮山会（みやまかい）」で発足したと聞いていましたが、平成26年、第21回から新たに福島県が参加し、同時に「宮山福会（みやふくかい）」と改称しました。

18日は、途中の宇都宮駅で、研修センター渡邊・大鹿各先生、京都府長岡市OB谷口氏、千葉市田邊・鈴木各氏ご一行と合流しました。今年は、福島県が幹事ということで、郡山市八代・柳沼各氏、須賀川市の相楽・青木各氏が福島駅まで、出迎えていただきました。早速、会場の飯坂温泉「摺上亭大鳥」に到着しました。午後6時から20数名の大宴

会が開宴し、美味しい料理や、お酒に舌つづみをうち、それぞれの近況や健康談議に夜が更けるのを忘れるほどでした。

翌19日は、ホテルを出発して、車5台に分乗し浄土平を目指しました。なぜか、この間だけ天候に恵まれ、吾妻小富士の往復に少々疲労困ぱいではありま



令和6年度 宮山福会（於：山形県月山 志津温泉 仙臺屋）2024.10.19

したが、良い思い出になりました。その後、一路、山形県西川町志津温泉「仙臺屋」へと向かいました。初参加となる山形県長井市の板垣浩美課長と松島町の大宮司会計課長が直行され、渡邊先生、寺沢町長含め12名が集結しました。ここからは阿部次長が幹事を務めていただき、秋の山菜料理



令和6年度 宮山福会（於：山形県月山 志津温泉 仙臺屋）2024.10.20

と美味しい地酒をいただくことに。特にあげび、キノコなど別格です。この会は2泊目は必ずと言っていいほど、ここ「仙臺屋」に来ています。コロナ禍以降では出来なかった、人と人が顔を合わせて会話が出来るのが、何よりの交流の醍醐味と実感しました。現役行政マンとしての種々の



令和6年度 宮山福会 (於：山形駅構内) 2024.10.20

悩みがあることに、退職後14年目の私もしっかり聞き入っていました。

翌日20日はいよいよ最終日です。この日は極端に冷え込み、宿からは月山の頂がうつすら雪化粧（初雪）しているのが見えました。数々の思い出を残し、山形

駅15時03分発の新幹線で帰路につきました。

今年も、このような機会をいただいたことに感謝し、来年の第30回という節目の「宮山福会」にぜひ参加出来ればと期待しています。それには、十分な健康管理が必須ですね！

福岡みずのわ会



福岡みずのわ会について

福岡市道路下水道局
建設部 中部下水道課

太田 千春



が女性で、その中でも連絡調整係という役割を担当させていただくこととなり、渡邊先生のご指導のもとで貴重な経験を積むことができました。

この度は、「研修みずのわ（第58号）」への執筆の機会をいただき、誠にありがとうございます。私は令和5年度に第4回「実施設計コース管きよ設計Ⅱ」を受講させていただきまし

た。本研修には約40名が参加しており、そのうち5名が女性で、その中でも連絡調整係という役割を担当させていただくこととなり、渡邊先生のご指導のもとで貴重な経験を積むことができました。

お心遣いのおかげと感じております。

本研修では、管きよ設計技術の習得を目的に、下水道に関する基礎的な事項から下水道法、さらには推進工法に関する知識に至るまで、幅広い講義が行われました。私自身、行政職歴が浅く、下水道に関する知識も乏しい中での参加でしたので、最初は不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、研修を通して一つ一つ学びを積み重ねていくことで、次第に自信を持てるようになりました。

また、研修中には各自治体から持ち寄った課題に基づくディスカッションも行われ、非常に実践的な知識を得ることができました。その準備をする際には、主に根拠資料や関連情報を図書室で調べたり、グループや同室の受講生と話し合ったりしたこと、より深い理解に結びつけることができたと感じて

います。こうした経験を通じて、実務にも活かせる思考力や調査力が養われたと実感しております。

そのような感じで順調に進んでいくと思っていた研修中盤の金曜日、講義中に急に体調が悪化し、休み時間の間に部屋に戻って熱を測ったところ、39度近くの高熱が出ていることが判明しました。同じ部屋の受講

生である、公共財団法人とちぎ建設技術センターの神永さんと高松市役所の穴吹さんが渡邊先生に連絡を取ってくださり、病院へ直行、診断の結果、インフルエンザと判明し、その後は部屋を移動し個室で隔離療養することになり、療養中はリモート環境で講義を受講させていただきました。さらに、朝昼晩の食事は部屋の前に置いていただくなど、研修センターの皆様からの心配りに支えられ、安心して療養、研修を受講することができました。講義

で使用された資料も、毎日丁寧に届けていただき、そのおかげで回復も早まり、最終日には無事に対面での講義と効果測定、および討議に復帰することができました。このように研修センターの皆様や渡邊先生から温かいサポートをいただいたことは、感謝の念に堪えません。

私にとって、この研修は単に知識を深めるだけでなく、他の受講生の皆様との交流を通じて人間関係を築き、様々な視点を得る機会ともなりました。特に、様々な自治体からの参加者と意見を交わす中で、それぞれの地域が抱える課題や現場での取り組みに触れることができ、大変勉強になりました。この経験を通じて得た知識や人脈は、今後の職務においても大いに活かせるものと確信しており、現在在研修の成果を踏まえ推進工事の設計を担当しております。



R6.3「福岡みずのわ会」局長・部長・課長・係長を含む人のわ

研修終了後も、「福岡みずのわ会」という交流の場に参加することができました。福岡市だけでなく、福岡県、太宰府市、さらには佐賀県神埼市からも多くの方々が集まり、総勢20名以上が顔を合わせる有意義な会合となりました。渡邊先生にも再開することができ、その場では、研修で学んだことの共有や、日頃の業務に関する相談など、幅広い話題で盛り上がり、非常に充実した時間を過ごすことができました。研修後もこうして交流が続いていることは、大きな励みになっています。

最後になりますが、お世話になりました渡邊先生をはじめ、研修所センターの皆様、そしてご一緒させていただいた受講生の皆様には心より感謝申し上げます。皆様のみずのわの活躍、下水道事業団研修の更なる発展とお祈り申し上げます。

熊本みずのわ会



熊本みずのわ会について

熊本県熊本市上下水道局
計画整備部 計画調整課

技術参事 坂田 直樹



このたびは「研修みずのわ第58号」への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。

さっそく令和5年度末に開催した「熊本みずのわ会」についてご紹介したいとこ

トされたことが決め手となりました。

そんな研究室で当時取り扱っていたテーマには、①FEMを用いた補強土構造物の安定性評価、②CT(医療現場で使うアレ)を用いた鋼矢板貫入時の地盤挙動解明、③CTを用いた土の締固め特性の解明、そして④下水管の破損に起因する道路陥没のメカニズムの解明及び対策の検討、などがありました。当時の私にはどのテーマも「...?」という感じで、特に希望もなかったため、同期との話し合い&じゃんけんにより研究テーマの割り当てを決めました。その結果、私の研究テーマは④に決まり、それが下水道に興味を持つきっかけとなりました。

その後、大学院を卒業し熊本市に入庁した私は、採用面接で「下水道関係の研究をしているので、その経験を活かせる部署で働きたいです!」とアピールした

のが功を奏したのかは分かりませんが、上下水道局に配属されました。水道工事発注部署に配属され、そこで3年間経験を積んだのち、平成27年4月に下水道整備課に異動となりました。下水道整備課では下水道未普及地区における管きよ整備工事に携わることになったのですが、いざ実務に携わってみると大学の授業や研究が役に立つ場面は思いのほか少なく、「このパーセントに丸が一個多い文字は何だろう?」「計画汚水量?何やこのちっさい数字と変な単位!」「流量表のこの数字どこから出てきたんや!上の欄の数字足しても合わんやんけ(怒)」などなど分からないことだらけで、とても苦労したことをよく覚えてます。そんな私が修行のため派遣されたのが、JS研修屈指の人気コースである「実施設計コース 管きよ設計I」でした。

このコースは、下水道とはという基礎の学習から始まり、計画論にも触れ、測量作業や製図(なんとCADじゃなくて手書き)もこなしただうえで、最終的には数量計算書・工期算定・諸経費計算等を含む設計書一式を作成(なんとExcelや積算システムじゃなくて手書き)するという大変充実したコースとなっていました。私は今年で下水道歴10年目になりますが、「管きよI」で学んだ内容は建設部署はもちろん、維持管理部署でも役立ちましたし、計画部署にいる現在でも役に立っています。

そんなJS研修ですが、平成27年度以降は残念ながら受講の機会を得られず、年齢や経験年数を考慮しても「もう自分が受講することはないのかな」と思っていたところに、「管きよI」の積算演習の講師をやってみないか、という話が突然舞い込んでまし



R6「熊本みずのわ会」の集い

た。
悩んだ末に引き受けた私は、ここで初めて渡邊良彦先生とお会いしました。そして、その縁から「熊本みずのわ会」にも参加することとなり、今回の寄稿のお話を頂くに至った、というわけです。

さて、前置きがだいぶ長くなりましたが、ここから本題の「熊本みずのわ会」の活動をご紹介します。
この会は渡邊先生と先生を慕う熊本県下のJS研修卒業生の交流会で、昨年度は熊本県庁、益城町、玉名

市、そして熊本市の現役・OBあわせて総勢11名が集まりました。久しぶりの再会という方も多かったようで、それぞれの近況報告や研修の思い出話で会は大変盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができたかと思えます。

また、参加者の中には、能登半島地震の支援からちょうど今日帰ってきた！という方がおられ、その方の気力・体力に驚愕すると同時に、疲労困憊でも一緒に飲みたい！と思わせる渡邊先生の「カリスマ性」を再認識したところです。

私は今回初めて「熊本みずのわ会」に参加しましたが、普通に仕事をしていても出会うことはないであろう人たちと交流できるこの会は、このご時世において、とても貴重なものだと感じました。

このような「縁」を大切にし、これからも下水道事

業の発展のために微力ながら頑張っていると思えます。

最後になりますが、「み

ずのわ」に関わる皆さまのご多幸と、日本下水道事業団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

岩手みずのわ会



研修の思い出と

岩手みずのわ会について

岩手県花巻市建設部下水道課

主 査 小野寺 尚子



ます。お声掛けくださいました渡邊先生へ感謝申し上げます。

初めに私が勤めております花巻市について、ごく簡単に紹介します。

当市は岩手県のほぼ中央に位置しております。市の西部には複数の温泉が湧き、東部には北上高地の最

この度は「研修みずのわ」第58号への寄稿の機会を賜りまして、大変光栄に思

高峰・早池峰山を有しています。また、岩手三大麺の一つわんこそば発祥の地とも言われており、毎年2月に開かれるわんこそば全日本大会では全国の食士たちが競い合います。郷土の先人には雨ニモマケズで知られる宮沢賢治がおりますが、近年花巻ゆかりの人物として一番有名なのは花巻東高卒のメジャーリーガー大谷翔平選手、菊池雄星選手かもしれません。市役所前にも両選手の活躍を祝う懸垂幕を掲出しています。市内には今年のプロ野球ドラフト会議で過去最多6人の選手が指名された富士大学もあり、野球界では存在感を強めているのではないのでしょうか。

時は遡り平成27年。私はそんな花巻の地を離れ、埼玉戸田の地に降り立っていました。初めて下水道課に配属となったその年、まずは戸田行って勉強してこい!!と送り出され管きよ設

計Ⅱコースに参加したので

講義内容について行けるのか、共同生活でうまくやっていたのか。不安を抱えて向かった先で出会ったのが、全国から集った研修生の皆さんと渡邊先生でした。

研修はまるで学生時代に戻ったかのような日々であつという間に過ぎていき

ました。もちろん講義やテストは真剣に取り組みましたが、研修生の方々とも夜は談話室で語らったり週末は一緒に出掛けたりと楽しく交流し、素敵な思い出がたくさんできました。

あれから早9年。私はまだまだ下水道課で頑張っています。この間に花巻市の公共下水道事業は概成となり、管路の新設工事が一段



市役所外観「花巻市は菊池選手・大谷選手を応援しています」



H28.3月の集いの様子

落しました。これからは管路更生・補修工事等が増えていくでしょうが、今はその狭間で一時風の期間を迎えています。今後に備えて、今度はぜひ管更生や施設の維持管理について学びに行きたいところです。(さすがにそろそろ異動となるかもしれません！)

授を囲む会)についてお話ししたいと思います。東北地方のみずのわ会といえは宮山福会が一大勢力として名を馳せており、以前は岩手のメンバーも宮山福会の集まりに加わったりしていたと聞いたことがあります。しかしながら、岩手県内でも渡邊先生を囲み県・市町村職員が交流する場としても10年以上活動



R6.2月の集いの様子

が続いています。

私が初めて集いに参加したのは研修があつた平成27年度末で、岩手下水道界のボス(?) N沼氏から突然のご連絡をいただきました。何かやらかしたのか!? おどおどしながらお話を伺うと、年度末に渡邊先生がいらっしゃるので囲む会に参加しませんか?との暖

かいお誘い。もちろん喜んで参加させていただきました。

その場はほとんどが初めての方々でしたが、下水道課に配属されたばかりの私のような者だけでなく、何年(何十年?)前に研修を受けたという先輩方もいらっしゃいました。研修の時からにこにこ気さ

くにお話ししてくださる渡邊先生でしたが、ベテランの錚々たるメンバーにも慕われる姿を目の当たりにし、すごい人とお知り合いになってしまった!と感じたものです。

その日は諸先輩方とまじめな話から趣味の話まで、色々なお話ができました。お酒も進んで楽しい時間を過ごしている間に終電も去り、厚かましくも参加者のおひとりに車で送っていただいたのも良い思い出です。(その節はありがとうございます。)

それから数年間は、お声がけはいただいていたものの中々会に参加できず。渡邊先生とも年賀状のやり取りのみとなつてしまいい残念に思っておりましたが、昨年度の会にてようやく再会を果たすことができました。

渡邊先生は9年経つても本当に全くお変わりなく、講義を挟んで間を開けずの

全国行脚とエネルギーに活躍されているとのことでした。前回参加した会では「岩手の前は山口に行ってきたんだよ!」とお話を伺い、なんてタフな方だ!と驚いたことが瞬時に脳内に蘇り、はて9年の歳月とは?と信じられないくらいでした。私も見習つていきたいと思しますので、次回は渡邊先生がなぜいつもそんなにハツラツとしていらつしゃるのかぜひとも秘訣を教えてください。お会いできる時を今から楽しみにしております。

毎回の会の開催にあたりましてお忙しい中いつも連絡・調整役を担っていただいている長沼さんには紙面をお借りして感謝申し上げます。そして最後に、日本下水道事業団研修センターの一層のご発展と、各地に広がるみずのわの縁で結ばれた皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、結びとさせていただきます。



MEMO

4. ※のコースは公務員及び民間事業者を対象としたコースです（なお、「処理場官理Ⅱ」専攻は、第1回が「官のみ」、第2回が「官民」となります）。

5. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承下さい。

6. 記載の金額については、すべて税込み価格です。

★＝新設 ●＝見直し ※＝官民合同研修

令和7年度 戸田研修(対面集合) 実施計画【公務員研修】

コース	専 攻 名	クラス	研修 期間	研修 回数	受講料 (円)
計画設計	下水道事業入門	初級	4	1	130,600
	下水道計画入門	初級	5	1	142,300
	●下水道事業の計画の策定・見直し	-	5	2	142,300
	●総合的な雨水対策	-	3	4	119,000
	●アセットマネジメント・ストックマネジメント入門(処理場施設編)	-	3	1	119,000
	●アセットマネジメント・ストックマネジメント入門(管路施設編)	-	3	1	119,000
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	-	4	2	130,600
	下水道事業の広域化・共同化	-	3	1	119,000
	下水道事業における危機官理と災害対策	-	3	1	119,000
	技術者のための公営企業会計－財務諸表活用法－	-	3	1	119,000
経営	下水道の経営	初級	4	1	130,600
	消費税(課題解決型研修)	-	4	1	145,200
	受益者負担金(課題解決型職場融合研修)	-	3	1	154,000
	下水道使用料	-	3	1	119,000
	経営戦略(課題解決型研修)	-	3	1	132,000
	滞納対策	-	3	1	119,000
	接続・水洗化促進と情報公開	-	3	1	119,000
実施設計	管さよ基礎	初級	17	1	226,200
	管さよ設計Ⅰ	初級	12	4	198,400
	管さよ設計Ⅱ【指定講習】	(指)	17	5	226,200
	推進工法	-	10	2	177,300
	管更生の設計と施工管理	-	4	2	130,600
	設計照査(会計検査)	-	5	1	142,300
	排水設備工事の実務	-	3	1	119,000
	処理場設計Ⅰ	-	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ【指定講習】	(指)	12	1	198,400
	処理場設備の設計(機械設備)	-	5	1	142,300
	処理場設備の設計(電気設備)	-	4	1	130,600
	設備の改築更新	-	3	1	119,000
工事監督管理	工事管理【指定講習】	(指)	12	1	198,400
維持管理	管さよの維持管理	初級	12	2	198,400
	管さよの点検・調査	-	5	1	142,300
	処理場管理の基礎	初級	4	1	130,600
	処理場管理Ⅰ	初級	11	3	189,000
	※処理場管理Ⅱ【指定講習】	(指)	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	-	3	1	119,000
	※水質管理Ⅰ	初級	10	1	177,300
	※水質管理Ⅱ	-	5	1	142,300
	事業場排水対策	-	10	1	177,300
	※水処理施設の管理指標の活かし方	-	2	1	60,700
	※水質管理のトラブル対応	-	2	1	60,700
	★窒素、りん処理のトラブル原因と対策 ※	-	5	1	142,300
官民連携・ 国際展開	●ウォーターPPP入門	初級	3	3	119,000
	★ウォーターPPP導入の準備と手続き	-	3	1	119,000
	処理場の包括的民間委託における履行確認	-	2	1	60,700

宿泊施設として新寮室棟又は管理本館棟の2施設があり、応募状況によりコースごとに宿泊する施設の違いが生じるため宿泊費用も異なります。

(※女性の研修生は新寮室棟への宿泊となります)

1. 新寮室棟に宿泊する場合: 受講料の他に宿泊費として1泊あたり7,000円が必要になります。なお、7,000円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。

2. 管理本館棟に宿泊する場合: 受講料の他に宿泊費として1泊あたり6,500円が必要になります。なお、6,500円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。

3. クラス欄の(指)は、指定講習を示します。

下水道
技術検定

下水道技術検定及び
下水道管理技術認定試験について

研修センター管理課

1. 下水道技術検定等の区分、試験科目、試験方法について

(1) 下水道技術検定

区分、試験科目、試験方法については、以下の表のとおりです。

検定区分		検定の対象	試験科目	試験方法
下水道 技術検定	第1種 技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	下水道計画、下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式及び記述式
	第2種 技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式
	第3種 技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	下水処理、工場排水、運転管理、安全管理及び法規	多肢選択式

(2) 下水道管理技術認定試験

区分、試験科目、試験方法については、以下の表のとおりです。

試験区分		試験の対象	試験科目	試験方法
下水道 管理技術 認定試験	管路施設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規	多肢選択式

2. 合格者の利点

(1) 有資格者になるための実務経験年数が短縮できます

下水道の設計、工事の監督管理及び維持管理については、下水道法及び下水道法施行令により、学歴等に応じた一定の実務経験を有する者に行わせなければならず、事業を実施するにはこのような有資格者を確保する必要があります。

技術検定（第1種、第2種、第3種）は有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、合格した場合、下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

例えば、大学の土木工学科（下水道工学の履修無し）を卒業した方が計画設計の有資格者になるためには、下水道を含む関連インフラ（上水道、工業用水道、河川、道路）の実務経験を合算した年数が6年以上必要になりますが、第1種技術検定に合格すると、学歴によらず3年に短縮することができます。

なお、今年度から下水道法施行令の一部改正により、下水道の設計者等の資格が緩和され、第1種技術検定合格者においては、計画設計の実務経験年数が、これまでの5年（うち下水道の経験年数は1.5年）から、3年（うち下水道の経験年数は0.5年）に短縮されています。（別表「下水道法施行令15条及び同15条の3に定める資格要件」を参照）

(2) 下水道処理施設管理技士の登録条件になっています

下水道維持管理業者登録規程により登録を受けようとする場合、営業所ごとに、維持管理業務の技術上の管理をつかさどる専任の「下水道処理施設管理技士」を置く必要があります。

第3種技術検定に合格し、学歴等に応じた所定の実務経験年数を有することで、「下水道処理施設管理技士」になることができます。

(3) 下水道管路管理技士試験の受験資格になっています

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的とした制度です。

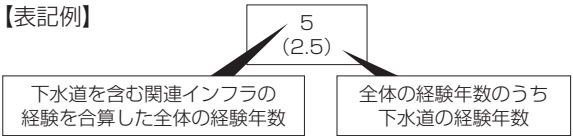
日本下水道管路管理業協会が実施する下水道管路管理技士試験のうち「総合技士」及び「主任技士」部門において、認定試験（管路施設）の合格が受験資格のひとつとされています。なお、技術検定（第1種、第2種、第3種のいずれか）の合格者であることも同様に受験資格になっています。詳細は、（公社）日本下水道管路管理業協会のホームページをご確認ください。

<別 表>

■下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

同第15条の3 下水道法施行令 第15条及び同第15条の3	区 分		要 件		資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数（注1）			
	卒業又は修了した学校等		卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	計画設計	監督管理等		維持管理
						処理施設 ポンプ施設	排水 施設	処理施設 ポンプ施設
第1号	新制大学		土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学	5 (2.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)
	旧制大学		土木工学科又はこれらに相当する課程	—				
第2号	新制大学		土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	6 (3)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)
			機械工学科、電気工学科又はこれらに相当する課程	—	6 (3)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)
第3号	短期大学 高等専門学校 旧制専門学校		土木科又はこれに相当する課程	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)
			機械工学科、電気工学科又はこれらに相当する課程	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)
第4号	新制高等学校 新制中等教育学校 旧制中等学校		土木科又はこれに相当する課程	—	10 (5)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)
			機械科、電気科又はこれらに相当する課程	—	10 (5)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)
第5号 第6号	日本下水道事業団法施行令 第4条第1項に定める技術検定		第1種技術検定合格		3 (0.5)	2 (0.5)	1 (0)	—
			第2種技術検定合格		—	2 (0.5)	1 (0)	—
			第3種技術検定合格		—	—	—	2 (0)
第7号	建設業法第27条による第二次検定の合格者（一級土木施工管理技士）		土木施工管理に合格した者		—	3 (1.5)	1.5 (1)	—
第8号	技術士法による二次試験		下水道を選択科目として上下水道部門に合格した者		0 (0)			0 (0)
			水質管理又は廃棄物・資源循環を選択科目として衛生工学科部門に合格した者		—	—	—	0 (0)
第9号	上記に定める学歴のない者		—	—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)
第10号	新制大学の大学院		5年以上在学（卒業）	下水道工学	2 (1)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)
	新制大学の大学院又は専攻科 旧制大学の大学院又は研究科		1年以上在学	下水道工学	4 (2)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)
	短期大学の専攻科		1年以上在学	下水道工学	7 (3.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)
	国土建設学院等		上下水道工学科	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
	外国の学校		日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。					
	指定された試験		下水道管理技術認定試験（処理施設）		—	—	—	2 (1)
	指定講習	国土交通大学校 日本下水道事業団	専門課程下水道科研修		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
			下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
			下水道維持管理資格者講習会		—	—	—	5 (2.5)

【表記例】



- <関連インフラ>
- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
 - ・維持管理の場合
下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

- 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。
- 「監督管理等」とは、実施設計（計画設計に基づく具体的な設計）又は工事の監督管理（その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認すること。）をいう。
- 「維持管理」とは、処理施設等の運転管理等をいう。

3. 令和6年度の実施結果

令和6年11月に全国10都市で実施した第50回下水道技術検定のうち第2種及び第3種並びに第38回下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格者を12月18日（水）に発表しました。

発表の方法は、同日、合格者の受験番号を日本下水道事業団のホームページに掲載するとともに、合格者本人に書面で通知しました。

また、日本下水道事業団研修センター（埼玉県戸田市下笹目5141）の庁舎内に合格者の受験番号を掲示しました。（<https://www.jswa.go.jp/kentei/gokakuhappyo.html>）

【第2種、第3種技術検定及び下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格者の状況】

技術検定第2種の受検者は845人、合格者は258人であり、合格率は30.5%となっています。第3種の受検者は4,434人、合格者は1,498人、合格率は33.8%となっています。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受検者数は1,572人、合格者は683人であり、合格率は43.4%となっています。

第50回下水道技術検定（第2種、第3種）・第38回下水道管理技術認定試験合格者数等一覧

第2種技術検定			第3種技術検定			認定試験（管路施設）		
受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率
845名	258名	30.5%	4,434名	1,498名	33.8%	1,572名	683名	43.4%
(878名)	(286名)	(32.6%)	(4,624名)	(1,763名)	(38.1%)	(1,492名)	(581名)	(38.9%)

注（ ）内は前年度の実績

【第2種、第3種技術検定及び下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格基準点】

第50回下水道技術検定（第2種、第3種）及び第38回下水道管理技術認定試験（管路施設）における合格基準点については、次表のとおりです。

第50回下水道技術検定及び第38回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		試験方法	出題数	満点	合格基準点
下水道 技術検定	第2種	多肢選択式	60問	60	42
	第3種	多肢選択式	60問	60	43
認定試験	管路施設	多肢選択式	50問	50	39

なお、第1種技術検定の合格発表については、令和7年2月5日（水）に行う予定です。

※紙面の取りまとめの関係から、第1種技術検定の結果については、

技術検定のホームページ、<https://www.jswa.go.jp/kentei/index.html> をご確認ください。

研修センターの歩み

平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成
平成7年	7・5	総合実習棟竣工
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える
平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任
平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任
昭和55年	10・1	第5代本部長 ト部 壮一就任
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成
昭和61年	10・1	第7代本部長 苦米地 行三就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成

平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任
	9・21	臨時研修「地震対策」実施
平成24年	4・17	研修修了生60,000人達成
	11・1	事業団設立40周年を迎える
	11・22	臨時研修「放射能対策」実施
	3・29	本館耐震化工事終了
平成25年	4・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任
	11・1	第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成28年	4・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任
	7・1	研修修了生70,000人達成
平成29年	10・4	新寮室棟基本設計着手
	11・1	事業団設立45周年を迎える
平成30年	3・16	新寮室棟基本設計完了
	4・1	第23代研修センター所長 松村 弘之就任
	5・22	新寮室棟詳細設計着手
	8・21	研修修了生75,000人達成
令和元年	9・27	新寮室棟詳細設計完了
	11・1	第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任
	11・30	新寮室棟（仮称）着工
令和2年	2・13	研修修了生80,000人達成
	4・1	第24代研修センター所長 水津 英則就任
令和3年	11・1	第5代研修・国際及び東日本担当理事 渡辺 志津男就任
令和4年	4・1	新寮室棟供用開始
	11・1	事業団設立50周年を迎える
令和5年	4・1	第25代研修センター所長 豆谷 竜太郎就任
令和6年	4・1	研修講師登録制度創設 各研修のWEB受付を開始

MEMO



浮き城まつり

埼玉県 行田市



古代蓮



旧小川忠次郎商店舗及び主屋



水城公園



時代まつり



花手水のライトアップ

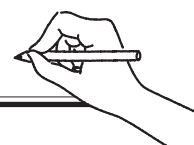
編集後記

今回、2回目の編集に携わらせていただきました。市長様や管理職の皆様、地方自治体のOBの皆様など、様々なお立場の方からの想いに触れさせていただきました。編集をするにあたり、編集者の小職だけではなく、この「研修みずのわ」によってご執筆者様の想いを全国へお届けできることは大変意義深いものと改めて実感した次第です。読者の皆様には執筆者様の文章から想像できる様々な背景もイメージしつつ、ご一読いただけますと幸甚に存じます。

本号への執筆者様をはじめ、歴代の研修生の皆様、研修センターの研修業務にご協力を賜りました皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を頂けますと幸甚に存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。



研修企画課
課長代理 岸本 涼一



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きなつながりが生まれるように、との期待を託したものです。

ギネス世界記録認定 世界最大の田んぼアート

お米の産地である行田市の水田を彩る
初夏から秋の風物詩として定着した田んぼアート。
約 2.8 ヘクタールの大きさを誇り、
2015 年に「世界最大の田んぼアート」として、
ギネス世界記録に認定されました。



機関誌「研修みずのわ」 第58号

令和7年1月発行 第58号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL 048-421-2692
FAX 048-422-3326
印刷 株式会社石井印刷